熊本市
Kumamoto City

令和8年熊本地震に関する

市民アンケート調査

結果報告書

【抜粋版】



令和8年(2026年)10月

熊本市

目 次

調査の概要 3

報告書の見方 4

Ⅰ ご自身と世帯のことについて 5

問1 性別／問2 年齢 6
問3 発災時の居住地域 7
問4 世帯構成 8
問5 世帯内の要配慮者 9
問6 被災の有無 10

Ⅱ 被災者への質問 11

問7 被災時の住居の種類 12
問8 平成28年熊本地震の被災と改修 13
問9 現在の生活場所 14
問10 避難先 16
問11 指定避難所を利用しなかった理由 17
問12 発災後1週間の困りごと 18
問13 り災証明書／問14 住家の被害程度 19
問15 住家・家財の被害と金額 21
問16 現在の困りごと 27
比較：発災直後と現在の困りごと 28
問17 現在の負担・不安 29
問18 心の安らぎになるもの 32
問19 住まいの再建状況と支援の必要性 33

Ⅲ 全市民への質問 35

問20 情報の入手先 36
問21 事前に備えていたこと 38
問22 今後強化したい備え 39
比較：備えの実施と強化意向 40
問23 周りの人と取り組めること 41
問24 復旧・復興で重要なこと 42
問25 市が力を入れるべきこと 44
問26 ご意見・ご提案（自由記述） 46

資料 アンケート調査票（原文） 49

調査の概要

調査の目的

令和8年熊本地震の被災者支援の更なる充実を図るとともに、復旧・復興の取組及び将来に向けた強靭なまちづくりを推進するため、地震による被害状況や困りごと、復旧・復興に関する意見・要望を幅広く収集し、今後の施策や震災復興計画の検討に活用することを目的として実施しました。

調査の方法

調査期間	令和8年（2026年）9月11日（金）～9月30日（水）
調査対象	熊本市にお住まいの方
調査方法	電子申請フォーム・紙媒体による回答
回答数	2,395人（紙媒体の回答64件） （うち被災した人 1,386人、被災していない人 1,004人、無回答 5人）
設問構成	Ⅰ ご自身と世帯のことについて（問1～問6）／Ⅱ 被災者への質問（問7～問19）／Ⅲ 全市民への質問（問20～問26）

報告書の構成

Ⅰ ご自身と世帯のことについて

回答者の属性（性別・年齢・地域・世帯構成・要配慮者）と被災の有無

Ⅱ 被災者への質問

住居・避難・困りごと・り災証明・被害の程度と金額・不安・再建状況（被災者のみ回答）

Ⅲ 全市民への質問

情報の入手先・備え・共助・復旧・復興で重要なこと・自由記述

資料

アンケート調査票（原文）

報告書の見方

回答者数（n）	グラフの「n」は、その設問の回答者数です。問7～問19は「被災した」と回答した方（n＝1,386）、問11は被災者のうち問10で指定避難所を選ばなかった方（問10無回答を除く。n＝1,332）が対象です。
割合（%）	単一回答の設問は構成比、複数回答の設問は回答者数に対する回答率（合計は100%を超えます）です。小数第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100.0%にならない場合があります。本文の「計○%」など複数の選択肢を合わせた割合も件数から計算して四捨五入しているため、グラフの割合を足した値と0.1ポイント異なる場合があります。
並び順	単一回答の設問は選択肢の順（問13は回答の多い順。ただし「申請していない」「無回答」は末尾）、複数回答の設問は回答率の高い順です（「特になし」「その他」は末尾）。問12と問16、問21と問22は比較のため同じ並び順です。
件数の表示	グラフの数値は「割合（件数）」です。複数回答の設問で「特になし」などと具体的な選択肢の両方が選ばれている場合は、具体的な選択肢のみを採用して集計しています。
回答の食い違い	設問間で回答が食い違う場合（例：問4で高齢者世帯を選び問5で「該当する方はいなかった」を選択、問14と問15の被害の有無が異なる）も、各設問の回答どおりに集計しています。問15の選択肢は記入された金額に合わせて補正しています。
選択肢の略称	長い選択肢はグラフ上で略して表示し、各設問のページの下に原文を記載しています。

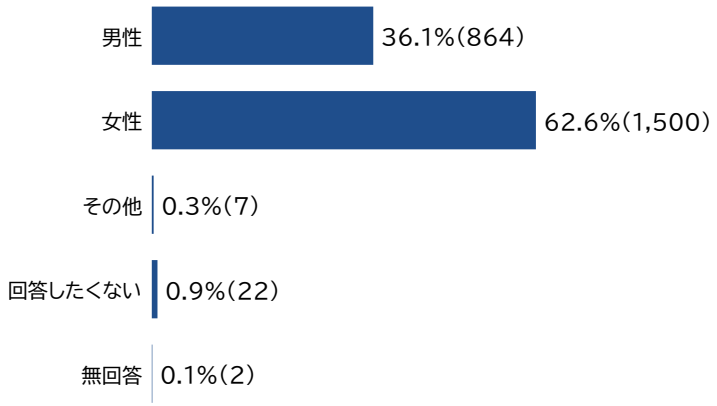
I ご自身と世帯のことについて

回答者の属性と被災の有無（問1～問6）

問1 性別／問2 年齢 …… 6
問3 発災時の居住地域 …… 7
問4 世帯構成 …… 8
問5 世帯内の要配慮者 …… 9
問6 被災の有無 …… 10

問1 あなたの性別を教えてください。

（単一回答） n＝2,395（全体） 数値＝構成比%（件数）

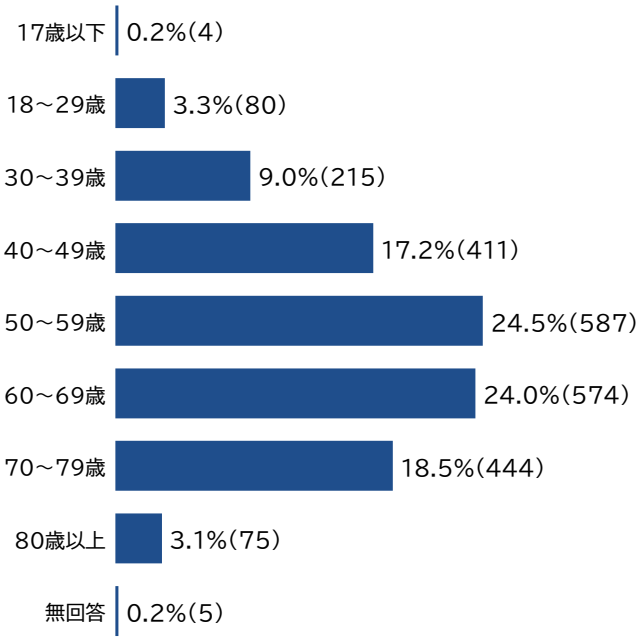


全体結果

「女性」が62.6%で最も多く、次いで「男性」（36.1%）、「回答したくない」（0.9%）となっている。
女性は男性の約1.7倍となっている。

問2 あなたの年齢を教えてください。

（単一回答） n＝2,395（全体） 数値＝構成比%（件数）



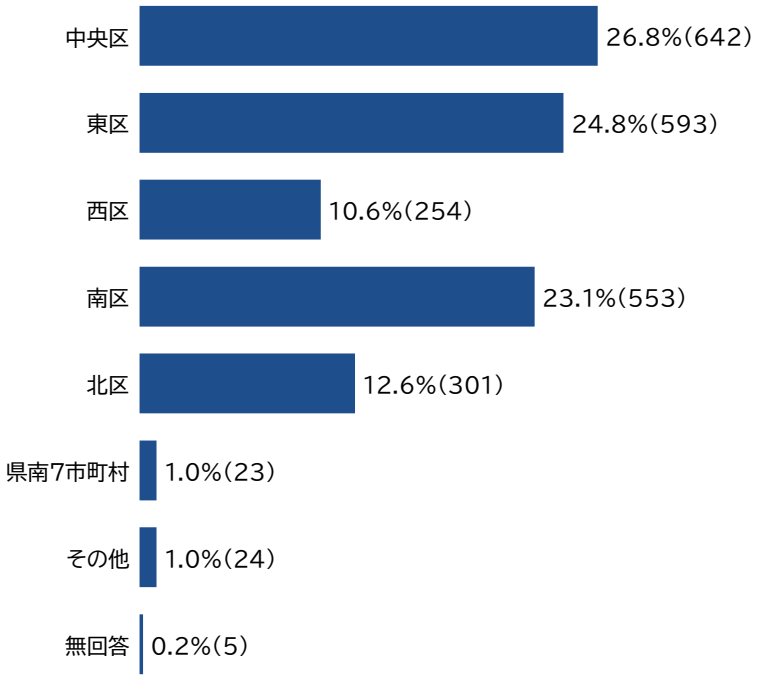
全体結果

「50～59歳」が24.5%で最も多く、次いで「60～69歳」（24.0%）、「70～79歳」（18.5%）となっている。
50～69歳で約半数（48.5%）を占め、39歳以下は計12.5%にとどまる。

問3 今回の令和8年熊本地震が発生した時に、あなたがお住まいだった地域を教えてください。

（単一回答） n＝2,395（全体） 数値＝構成比%（件数）

※ 県南7市町村は、八代市、氷川町、宇土市、宇城市、嘉島町、御船町、芦北町。



「その他」の内容	件数
菊池郡・菊陽町	5
益城町	5
その他の県内市町村	5
合志市	3
県外	2
その他	2
特になし・不明	2
合計	**24**

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

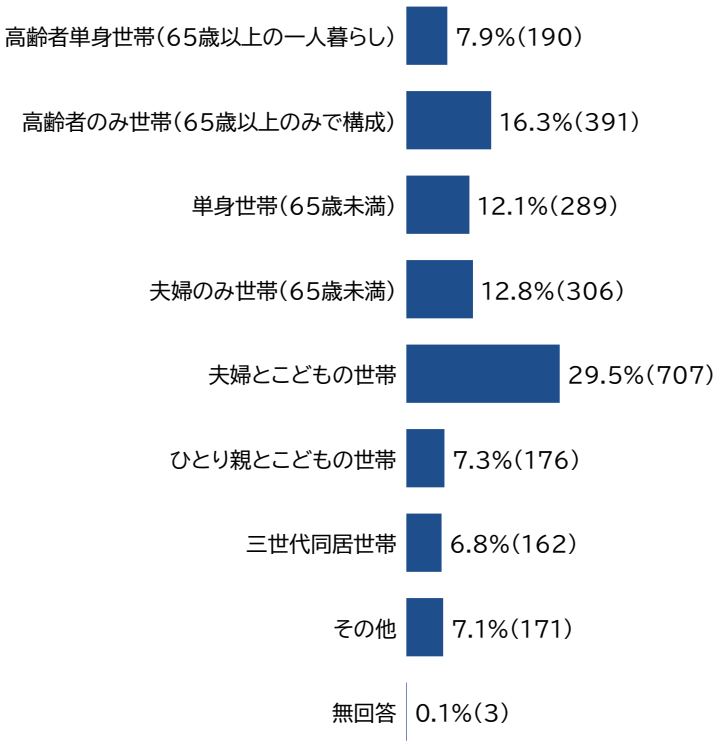
全体結果

「中央区」が26.8%で最も多く、次いで「東区」（24.8%）、「南区」（23.1%）となっている。
中央区・東区・南区の3区で約4分の3（74.7%）を占める。県南7市町村・その他の回答は計2.0%である。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「県南7市町村」＝「県南7市町村（八代市、氷川町、宇土市、宇城市、嘉島町、御船町、芦北町）」

問4 発災時のあなたの世帯構成について教えてください。

（単一回答） n＝2,395（全体） 数値＝構成比%（件数）



「その他」の内容	件数
高齢の親と子の世帯	50
夫婦の一方が65歳以上	31
親と成人した子の世帯	25
高齢者と65歳未満の世帯	15
きょうだいの世帯	12
夫婦と親の世帯	11
友人・パートナーと同居	4
二世帯住宅	3
高齢者と孫の世帯	3
選択肢と同じ内容	8
その他	7
特になし・不明	2
合計	**171**

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

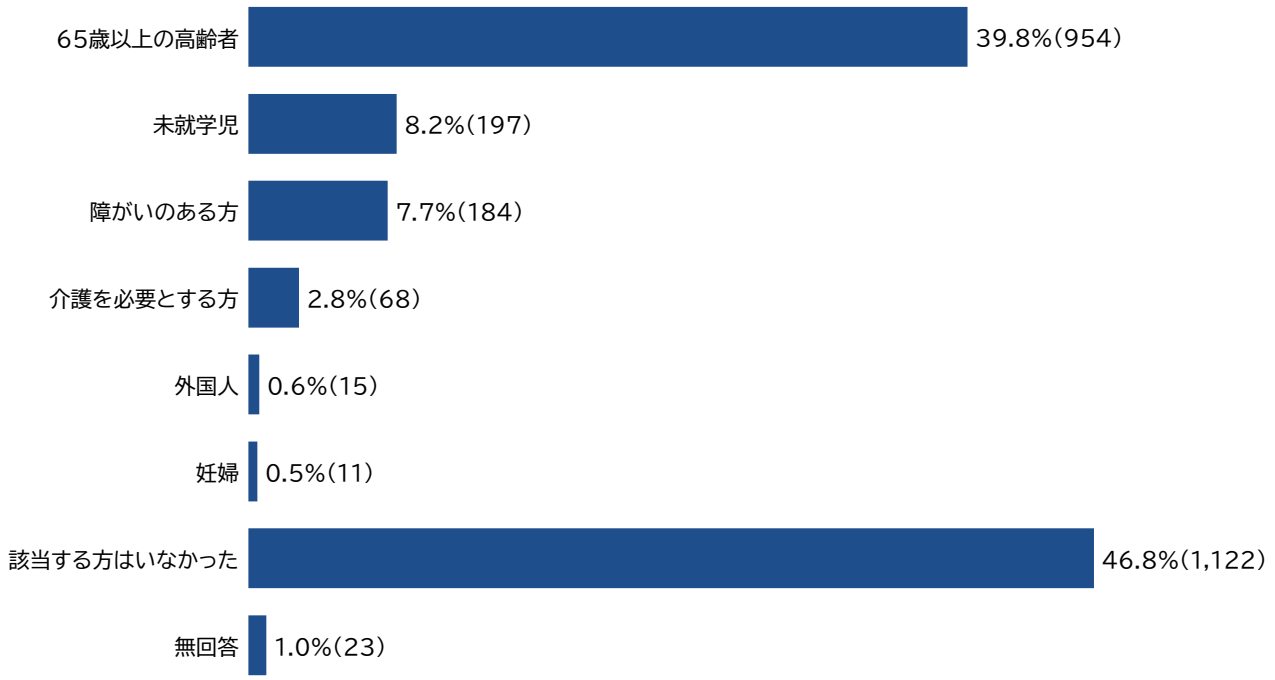
全体結果

「夫婦とこどもの世帯」が29.5%で最も多く、次いで「高齢者のみ世帯（65歳以上のみで構成）」（16.3%）、「夫婦のみ世帯（65歳未満）」（12.8%）となっている。
65歳以上のみで構成される世帯（高齢者単身世帯・高齢者のみ世帯）は計24.3%で、約4世帯に1世帯となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「三世代同居世帯」＝「三世代同居世帯（親・子・孫など）」

問5 発災時、あなたの世帯に次の方はいましたか。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



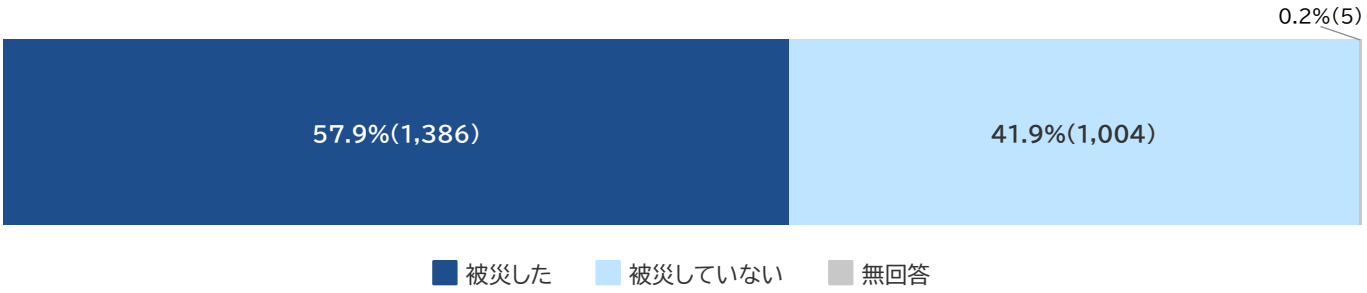
全体結果

「該当する方はいなかった」を除く項目では「65歳以上の高齢者」が39.8%で最も高く、次いで「未就学児」（8.2%）、「障がいのある方」（7.7%）となっている。「該当する方はいなかった」は46.8%である。要配慮者を含む世帯（「該当する方はいなかった」「無回答」以外を選んだ世帯）は52.2%を占める。

問6 今回の地震によって被災しましたか。

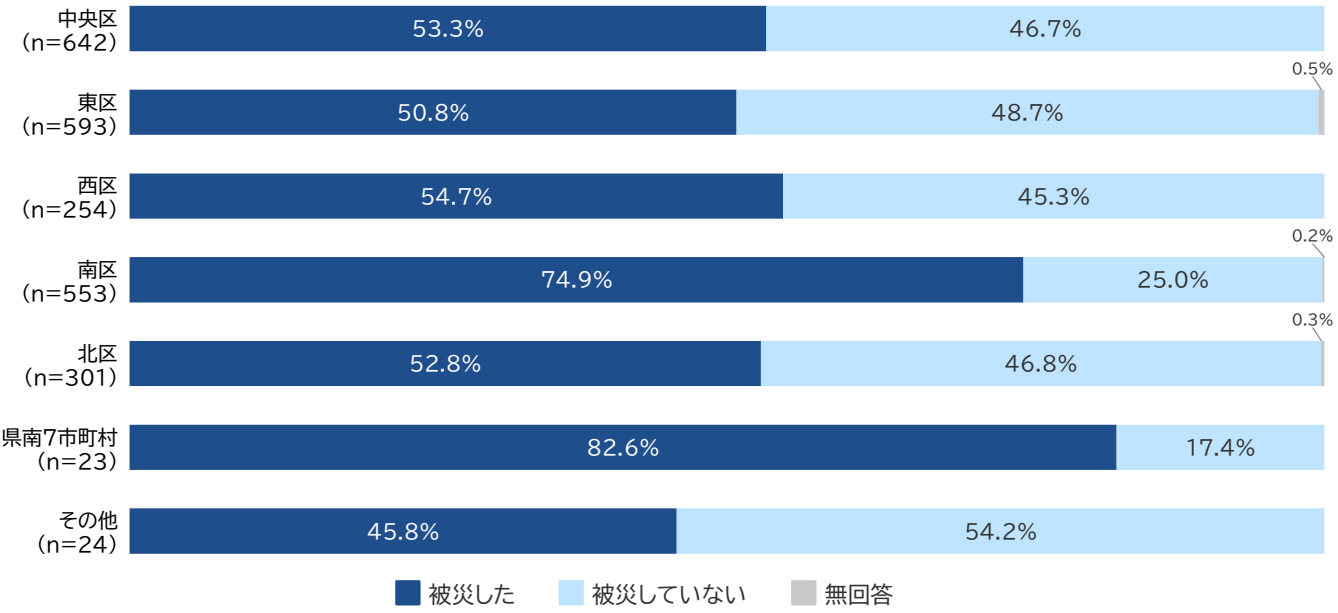
（単一回答） n＝2,395（全体） 数値＝構成比%（件数）

※「被災」には住家・家財の被害だけでなく、健康状態の悪化や精神的ストレスなど、心身や生活への影響も含みます。



居住地域別にみた被災の有無

問3 × 問6



全体結果

「被災した」が57.9%（1,386人）、「被災していない」が41.9%（1,004人）である。以降の問7～問19は、「被災した」と回答した1,386人を対象に集計している。
居住地域別にみると、「被災した」は南区（74.9%）、県南7市町村（82.6%）で高く、他の区（50.8～54.7%）では大きな差はみられない。

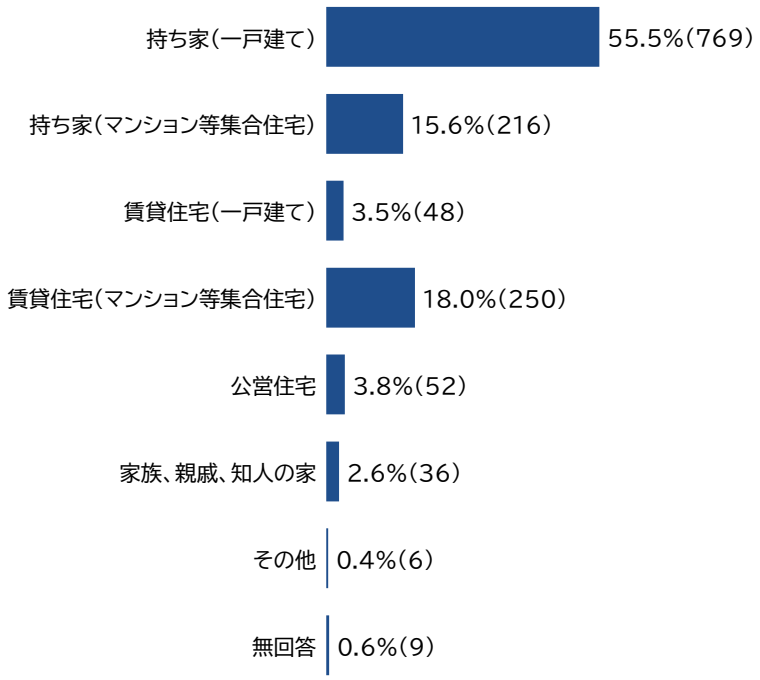
Ⅱ 被災者への質問

「被災した」と回答した方にお聞きしました（問7～問19）

問7 被災時の住居の種類 …… 12
問8 平成28年熊本地震の被災と改修 …… 13
問9 現在の生活場所 …… 14
問10 避難先 …… 16
問11 指定避難所を利用しなかった理由 …… 17
問12 発災後1週間の困りごと …… 18
問13 り災証明書／問14 住家の被害程度 …… 19
問15 住家・家財の被害と金額 …… 21
問16 現在の困りごと …… 27
比較：発災直後と現在の困りごと …… 28
問17 現在の負担・不安 …… 29
問18 心の安らぎになるもの …… 32
問19 住まいの再建状況と支援の必要性 …… 33

問7 被災時の住居について、種類を教えてください。

（単一回答） n＝1,386（被災者） 数値＝構成比%（件数）



「その他」の内容	件数
病院・学校等の施設	2
社宅・官舎	1
選択肢と同じ内容	2
特になし・不明	1
合計	6

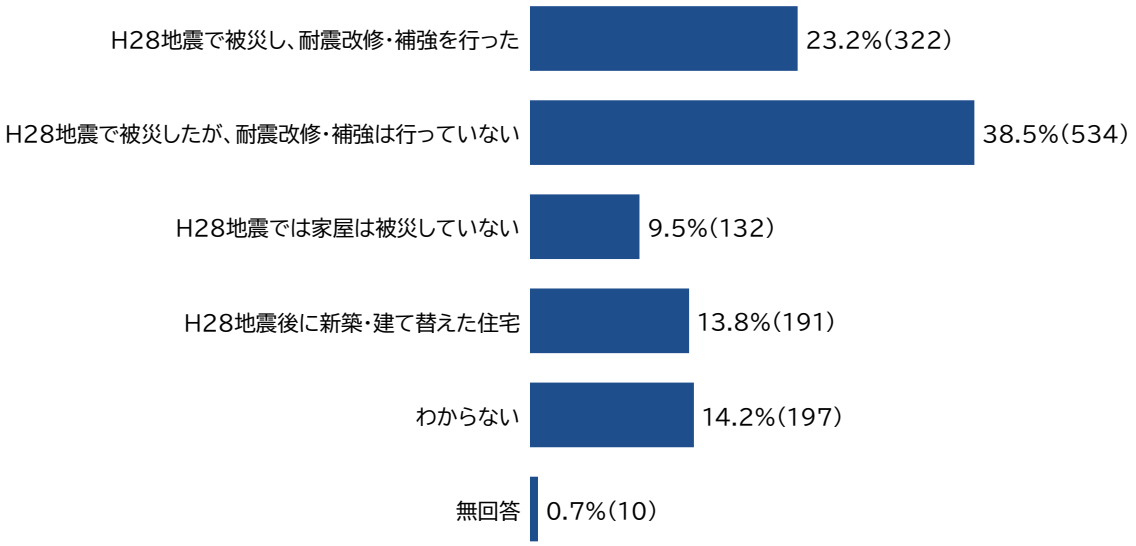
※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「持ち家（一戸建て）」が55.5%で最も多く、次いで「賃貸住宅（マンション等集合住宅）」（18.0%）、「持ち家（マンション等集合住宅）」（15.6%）となっている。持ち家（一戸建て・集合住宅）は計71.1%、賃貸住宅は計21.5%である。

問8 被災時の住宅について、教えてください。

（単一回答） n＝1,386（被災者） 数値＝構成比%（件数）



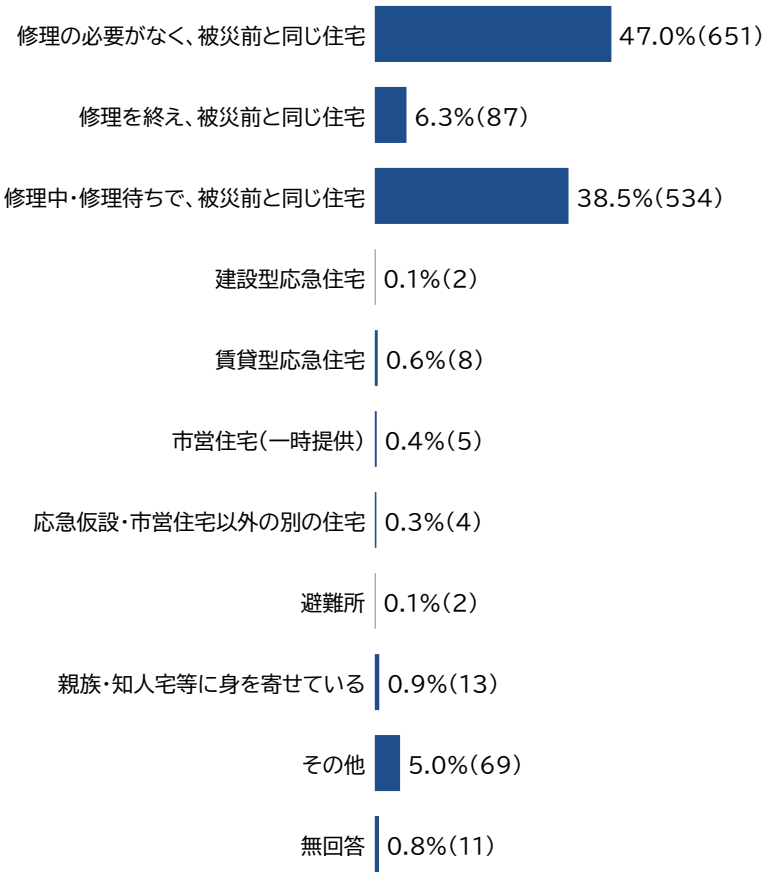
全体結果

「H28地震で被災したが、耐震改修・補強は行っていない」が38.5%で最も多く、次いで「H28地震で被災し、耐震改修・補強を行った」（23.2%）、「わからない」（14.2%）となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「H28地震で被災し、耐震改修・補強を行った」＝「平成28年熊本地震で家屋が被災し、その後、耐震改修・補強を行った」、「H28地震で被災したが、耐震改修・補強は行っていない」＝「平成28年熊本地震で家屋が被災したが、耐震改修・補強は行っていない」、「H28地震では家屋は被災していない」＝「平成28年熊本地震では家屋は被災していない」、「H28地震後に新築・建て替えた住宅」＝「平成28年熊本地震後に新築又は建て替えられた住宅である」

問9 現在、生活している場所についてお聞きします。

（単一回答） n＝1,386（被災者） 数値＝構成比%（件数）



「その他」の内容	件数
修理せずそのまま居住	14
経済的理由で修理できない	14
修理の要否・方法を検討中	13
賃貸等で修理が未対応	10
宿泊支援を利用	2
選択肢と同じ内容	7
その他	9
合計	69

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「修理の必要がなく、被災前と同じ住宅」が47.0%で最も多く、次いで「修理中・修理待ちで、被災前と同じ住宅」（38.5%）、「修理を終え、被災前と同じ住宅」（6.3%）となっている。被災前と同じ住宅で生活している人は計91.8%、応急住宅・市営住宅（一時提供）は計1.1%である。

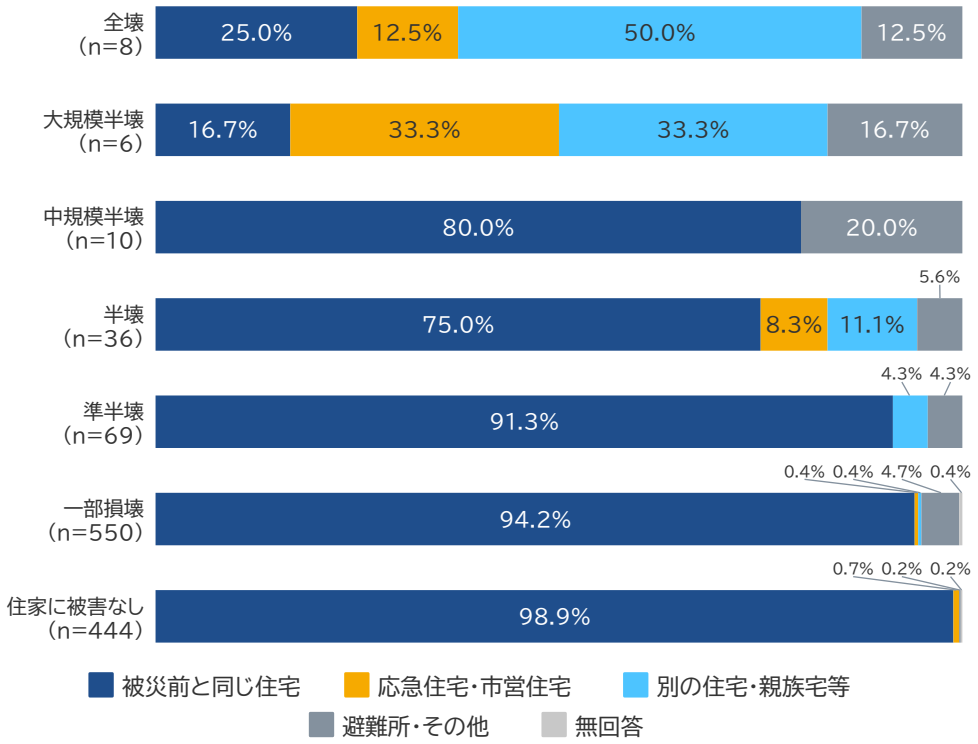
※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「修理の必要がなく、被災前と同じ住宅」＝「修理の必要がなく、被災前と同じ住宅で生活している」、「修理を終え、被災前と同じ住宅」＝「修理を終え、被災前と同じ住宅で生活している」、「修理中・修理待ちで、被災前と同じ住宅」＝「修理中又は修理を待ちながら、被災前と同じ住宅で生活している」、「建設型応急住宅」＝「建設型応急住宅で生活している」、「賃貸型応急住宅」＝「賃貸型応急住宅で生活している」、「市営住宅（一時提供）」＝「市営住宅（一時提供）で生活している」、「応急仮設・市営住宅以外の別の住宅」＝「応急仮設及び市営住宅（一時提供）以外の別の住宅で生活している」

問9（クロス集計） 住家の被害程度別にみた現在の生活場所

住家の被害程度（問14）別にみた現在の生活場所（被災者 n=1,386）

住家の被害程度別にみた現在の生活場所

問14 × 問9

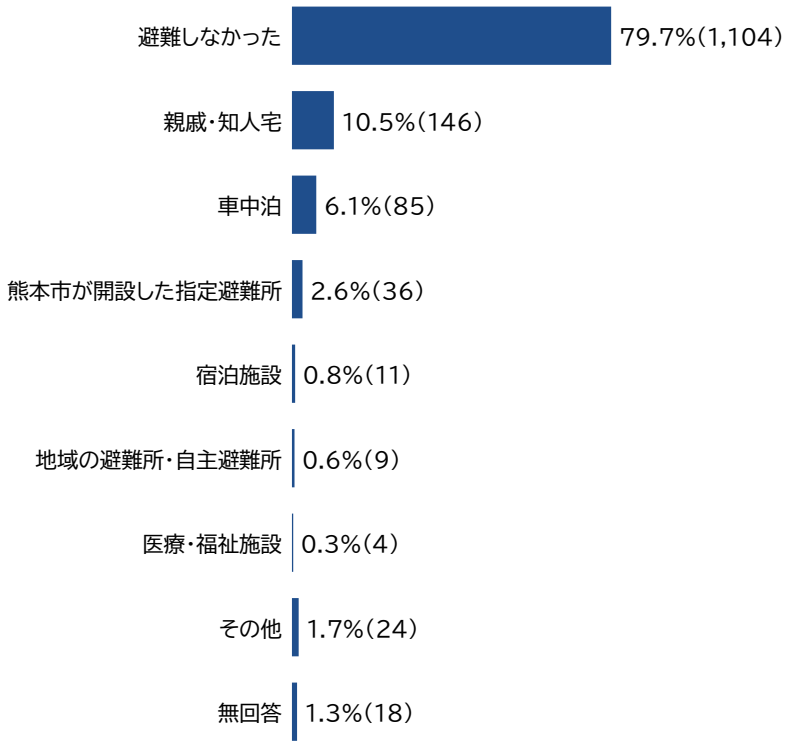


属性別の結果

全壊・大規模半壊では、被災前と同じ住宅で生活している人が2割前後にとどまり、別の住宅・親族宅等や応急住宅・市営住宅で生活している人が多い。中規模半壊以下では7割以上が被災前と同じ住宅で生活している。

問10 あなたは、今回の地震後、被災時の住まい以外の場所へ避難しましたか。

（複数回答） n＝1,386（被災者） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
職場・勤務先	8
県外・出張先に滞在	4
屋外・駐車場	3
避難できなかった	2
学校・大学	2
選択肢と同じ内容	2
その他	2
特になし・不明	1
合計	24

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

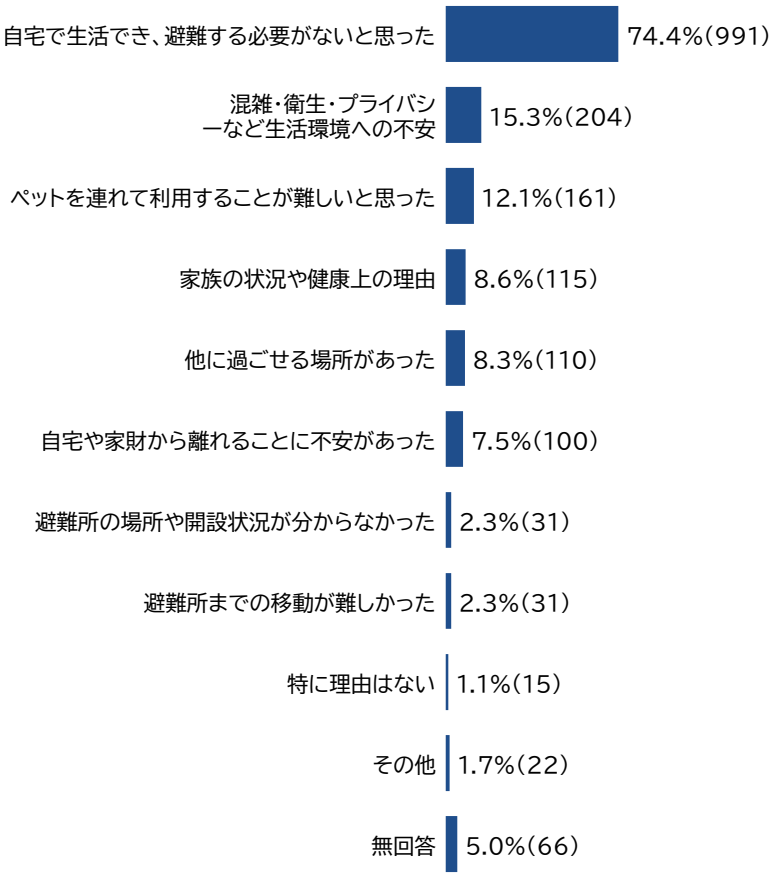
全体結果

「避難しなかった」が79.7%を占める。それ以外では「親戚・知人宅」が10.5%で最も高く、次いで「車中泊」（6.1%）、「熊本市が開設した指定避難所」（2.6%）となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「熊本市が開設した指定避難所」＝「熊本市が開設した指定避難所（学校、公共施設等）へ避難した」、「地域の避難所・自主避難所」＝「地域の避難所・自主避難所（公民館、集会所等）へ避難した」、「親戚・知人宅」＝「親戚・知人宅へ避難した」、「車中泊」＝「車中泊をした」、「宿泊施設」＝「宿泊施設（ホテル、旅館等）へ避難した」、「医療・福祉施設」＝「医療・福祉施設へ避難した」

問11 熊本市が開設した避難所を利用しなかった理由を選んでください。

（複数回答） n＝1,332（被災者のうち問10で指定避難所を選ばなかった方） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
仕事で不在	2
選択肢と同じ内容	16
その他	3
特になし・不明	1
合計	**22**

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

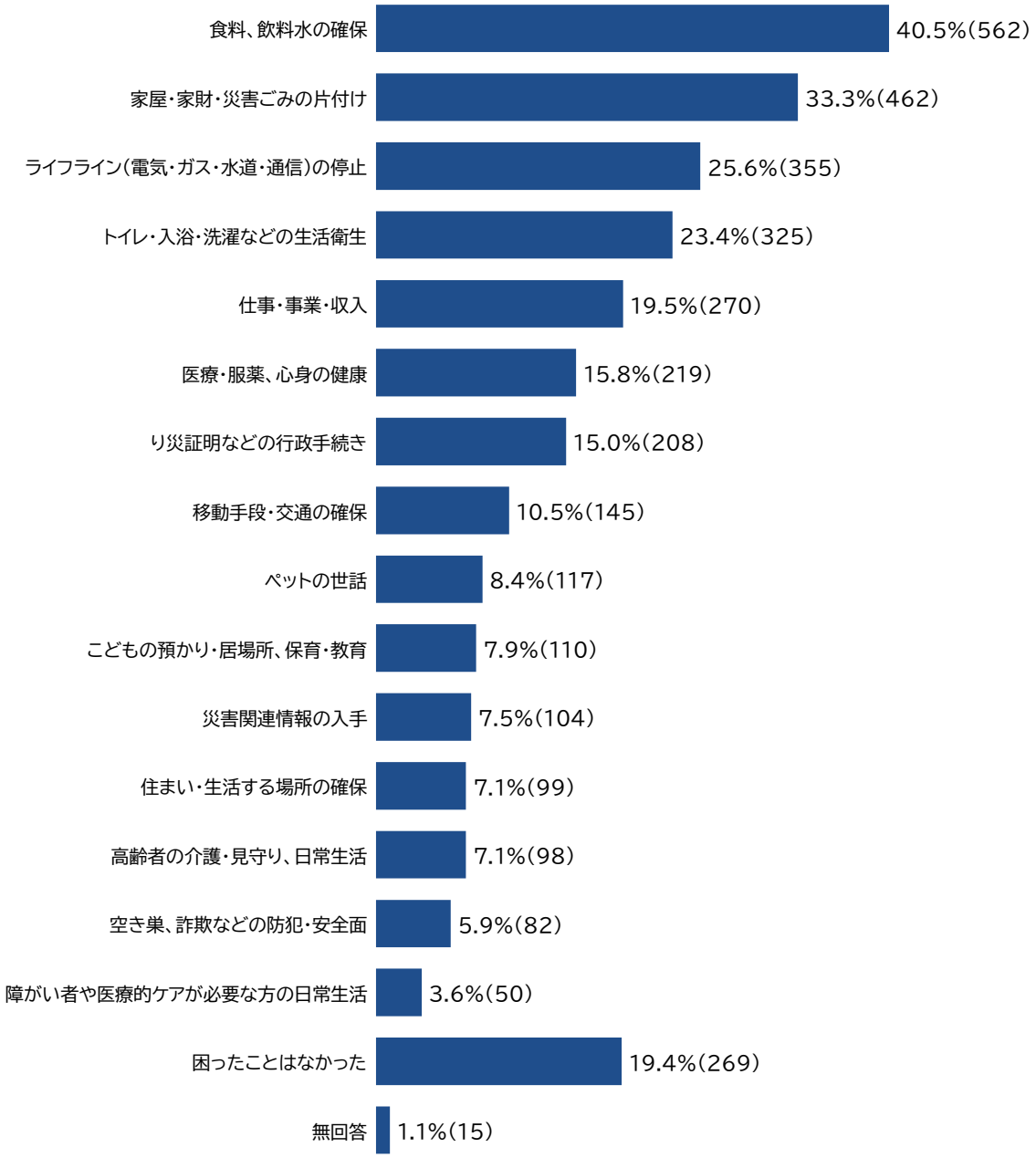
全体結果

「自宅で生活でき、避難する必要がないと思った」が74.4%で最も高く、次いで「混雑・衛生・プライバシーなど生活環境への不安」（15.3%）、「ペットを連れて利用することが難しいと思った」（12.1%）となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「家族の状況や健康上の理由」＝「家族の状況や健康上の理由により、避難所を利用することが難しかった」、「混雑・衛生・プライバシーなど生活環境への不安」＝「混雑、衛生、プライバシーなど、避難所の生活環境に不安があった」、「他に過ごせる場所があった」＝「地域の避難所、自主避難所、親族・知人宅、車内、宿泊施設など、他に過ごせる場所があった」

問12 発災直後からおおむね1週間の間に、あなた又はあなたの同居家族の暮らしに影響があった(困った)項目を全て選んでください。

(複数回答) n=1,386(被災者) 数値=回答率%(件数)



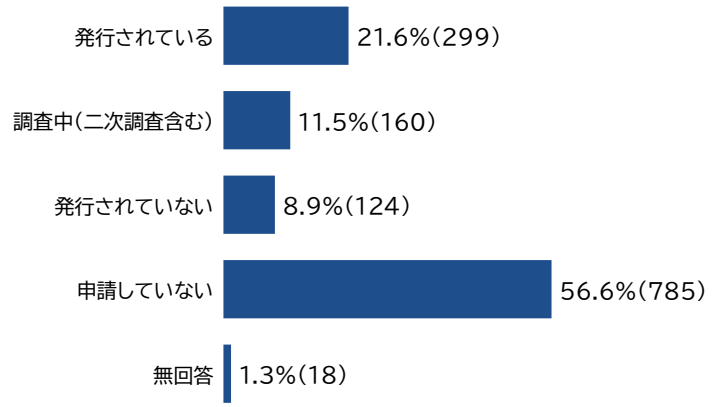
全体結果

「食料、飲料水の確保」が40.5%で最も高く、次いで「家屋・家財・災害ごみの片付け」(33.3%)、「ライフライン(電気・ガス・水道・通信)の停止」(25.6%)となっている。
「困ったことはなかった」は19.4%で、被災者の約8割が何らかの影響を受けている。

※ 選択肢の略称(グラフ上の表示=アンケートの原文):「ライフライン(電気・ガス・水道・通信)の停止」=「ライフライン(電気・ガス・水道・通信環境)の停止」、「障がい者や医療的ケアが必要な方の日常生活」=「障がい者や医療的ケアを必要とする方の日常生活」、「ペットの世話」=「ペットの世話(ペットがおり、避難できなかった場合を含む)」、「空き巣、詐欺などの防犯・安全面」=「空き巣、詐欺、性犯罪などの防犯・安全面」

問13 り災証明書が発行されていますか。

（単一回答） n＝1,386（被災者） 数値＝構成比%（件数）



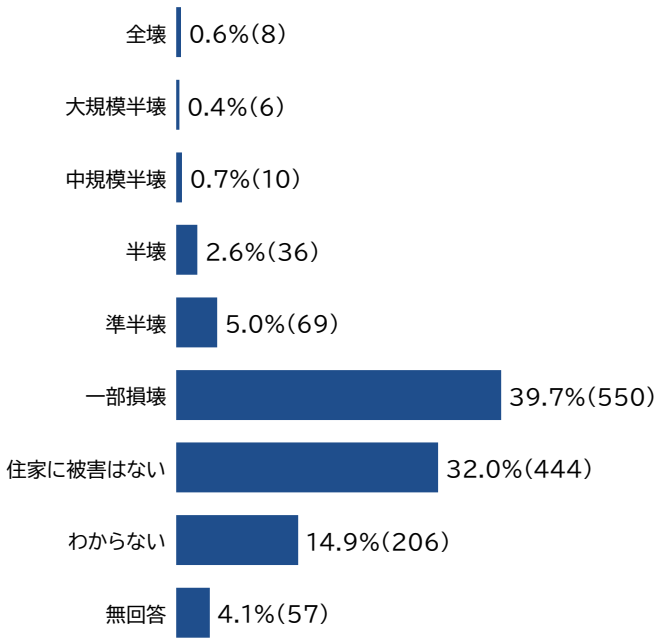
全体結果

「申請していない」を除く項目では「発行されている」が21.6%で最も多く、次いで「調査中(二次調査含む)」(11.5%)、「発行されていない」(8.9%)となっている。「申請していない」は56.6%である。

問14 住家の被害について、被害の程度を選んでください。

（単一回答） n＝1,386（被災者） 数値＝構成比%（件数）

※ り災証明書が発行されている方は判定区分、調査中・未取得の方はご自身の認識に最も近いものを選択。



全体結果

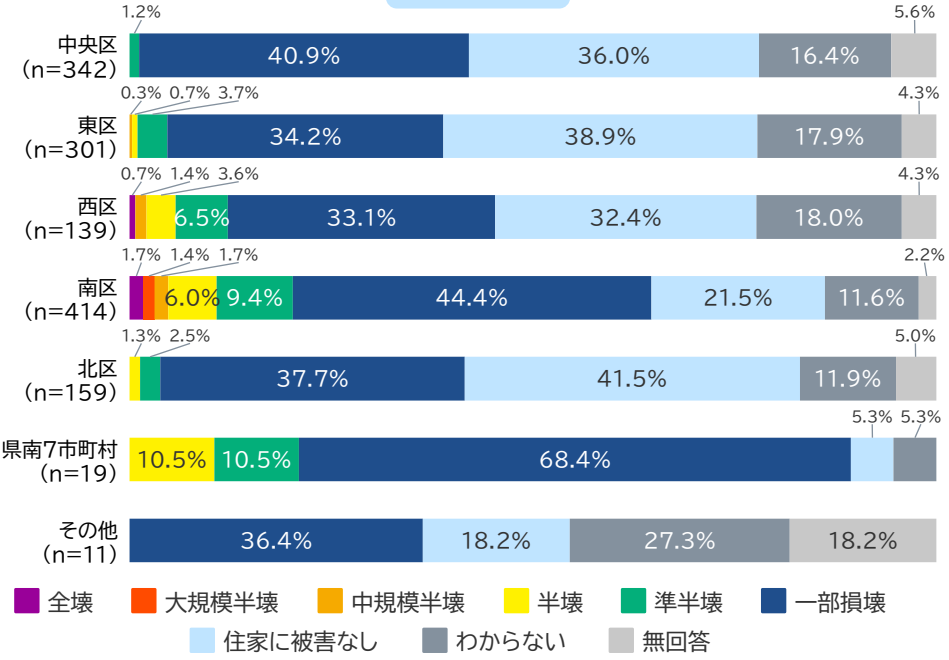
「一部損壊」が39.7%で最も多く、次いで「住家に被害はない」(32.0%)、「わからない」(14.9%)となっている。半壊以上(全壊～半壊)は計4.3%、準半壊・一部損壊は計44.7%である。
「住家に被害はない」「わからない」が計46.9%と、半数近くを占める。

問14（クロス集計） 属性別にみた住家の被害程度

居住地域別の住家の被害程度と、り災判定区分別にみた平成28年熊本地震での被災・耐震改修の状況（被災者 n=1,386）

居住地域別にみた住家の被害程度

問3 × 問14

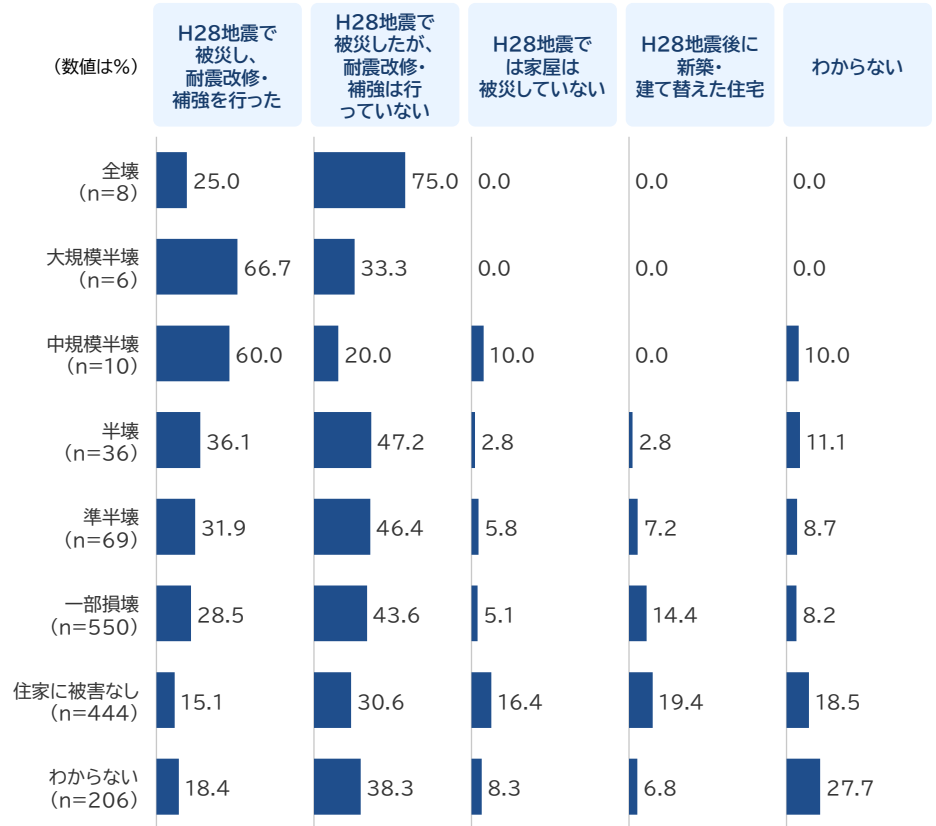


属性別の結果

南区では、全壊から準半壊までの合計が20.3%と、他の区より高い。

り災判定区分別にみた平成28年熊本地震での被災・耐震改修の状況

問14 × 問8



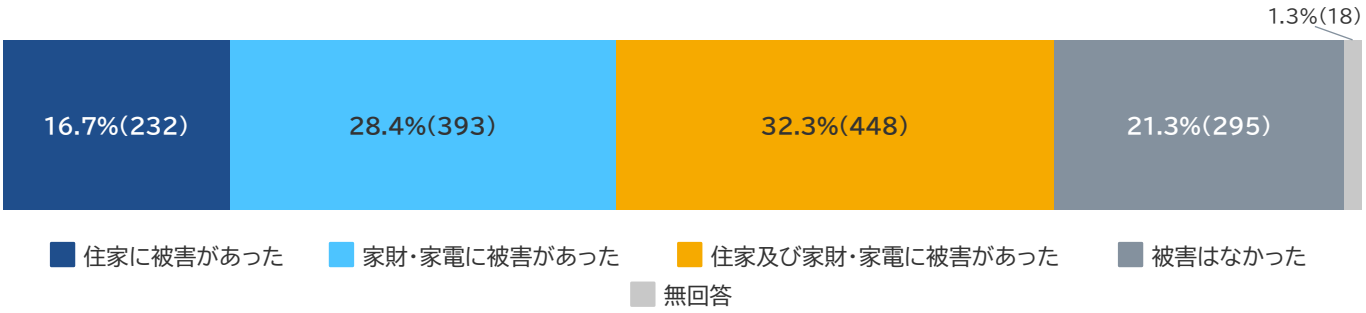
属性別の結果

「H28地震で被災し、耐震改修・補強を行った」は全壊（25.0%）、半壊（36.1%）、準半壊（31.9%）、一部損壊（28.5%）であり、「H28地震で被災したが、耐震改修・補強は行っていない」は全壊（75.0%）、半壊（47.2%）、準半壊（46.4%）、一部損壊（43.6%）と割合の増加がみられる。
ただし、大規模半壊、中規模半壊では、割合の減少がみられる。

※ 住宅の築年数・構造・所在地などの条件をそろえた比較ではないため、耐震改修の効果を示すものではない。

問15 住家や家財・家電に被害がありましたか。

（単一回答） n＝1,386（被災者） 数値＝構成比%（件数）



全体結果

「住家及び家財・家電に被害があった」が32.3%で最も多く、次いで「家財・家電に被害があった」（28.4%）、「被害はなかった」（21.3%）となっている。住家に被害があった人（「住家に被害があった」、「住家及び家財・家電に被害があった」の合計）は計49.1%、家財・家電に被害があった人（「家財・家電に被害があった」、「住家及び家財・家電に被害があった」の合計）は計60.7%である。
住家または家財・家電に何らかの被害があった人は計77.4%となっている。

被害額等の集計について

集計対象	被害があった方のうち、各欄に金額を記入した方（欄ごとに回答者数が異なります）。「住家・家財の両方に被害があった方」は、住家と家財・家電の両方の被害額を記入した方だけを対象に、住家分と家財分を足した額です（片方だけに被害があった方は含みません）
金額の単位	万円
回答の補正・除外	被害額の回答金額については、単位の記載等に明らかな誤りがあると判断されるものは補正を行っています。問15の選択肢と記入された金額が食い違う回答（66件）は、金額を優先して集計しています。自己負担額が被害額を上回る回答（住家6件、家財・家電20件）は、集計から除いています。
代表値（平均値・中央値）	平均値は金額の合計を回答者数で割った値で、一部の高額な回答の影響を受けやすい傾向があります。中央値は回答を金額の小さい順に並べたときに真ん中にくる値です（例：5人の回答が10・20・30・100・500万円なら、平均値132万円、中央値30万円）
負担の内訳	「行政支援」「保険補償」「自己負担」の合計額の構成比です

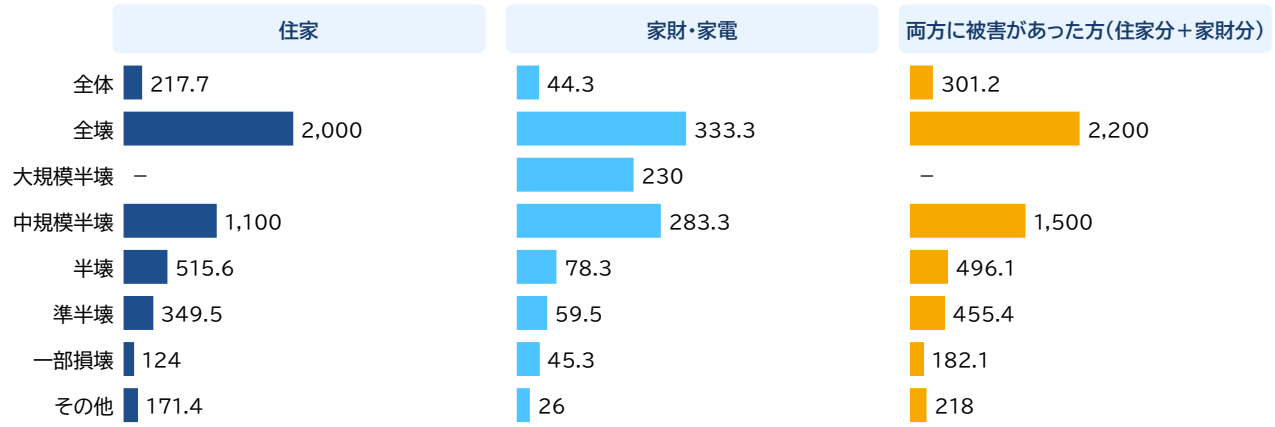
問15（クロス集計） 被害額の平均値・中央値（全体・被害区分別）

問14 × 問15

被害があった方が記入した被害額（万円）の平均値と中央値を、全体と住家の被害区分（問14）ごとに示します。「両方に被害があった方」は、住家と家財・家電の両方に被害があった方だけを対象に、住家分と家財分を足した額です。

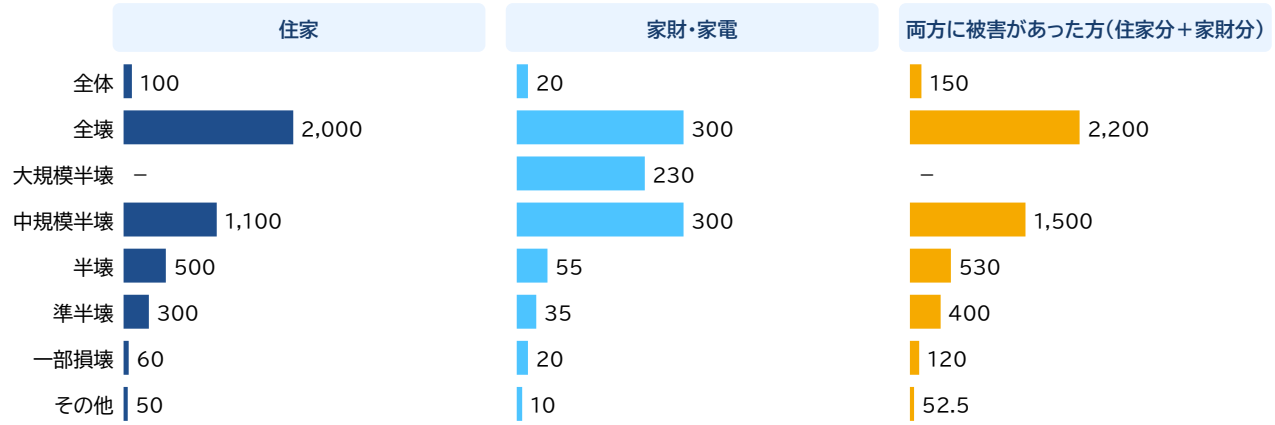
被害額の平均値

（単位：万円）



被害額の中央値

（単位：万円）



上のグラフの回答者数（人）	全体	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	その他
住家の被害額を記入した人数	195	2	0	2	16	21	121	33
家財・家電の被害額を記入した人数	358	3	1	3	18	20	158	155
住家・家財の両方の被害額を記入した人数	130	2	0	2	14	13	75	24

※ 単位は万円。被害額が0より大きい回答が対象。横軸の尺度はグラフごとに異なる。回答者数が少ない区分は、少数の回答で値が大きく変わる点に留意が必要。
※「その他」は「住家に被害はない」「わからない」「無回答」の合計。住家・家財の各欄には、両方に被害があった方の住家分・家財分も含む。「両方に被害があった方」は住家・家財の両方の被害額を記入した方のみが対象。自己負担額が被害額を超える回答は、住家・家財のどちらかで該当すれば「両方」の集計からも除く。

全体結果

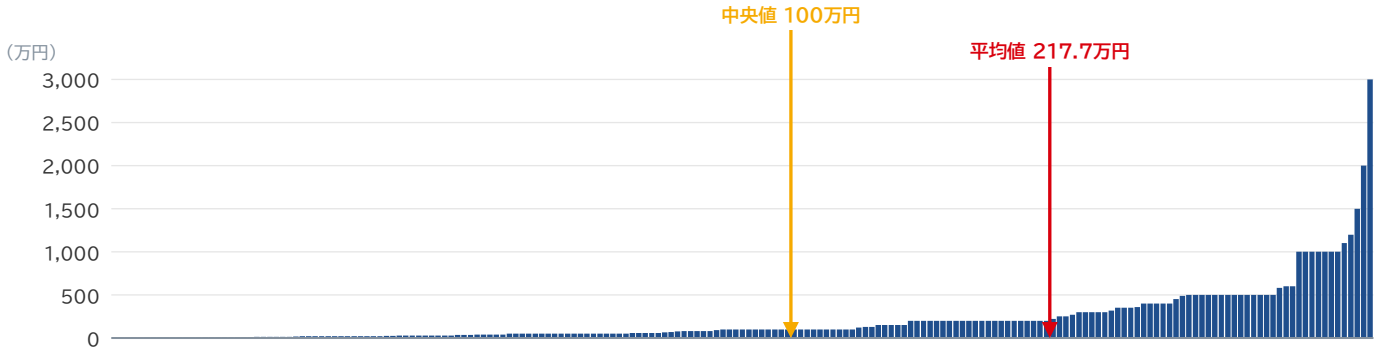
住家は平均値217.7万円・中央値100万円、家財・家電は平均値44.3万円・中央値20万円となっている。住家・家財の両方に被害があった方（130人）の被害額（住家分＋家財分）は、平均値301.2万円、中央値150万円である。被害区分別では「全壊」の両方に被害があった方が平均値2,200万円、中央値2,200万円で最も高い。

問15（クロス集計） 被害額の分布（住家）

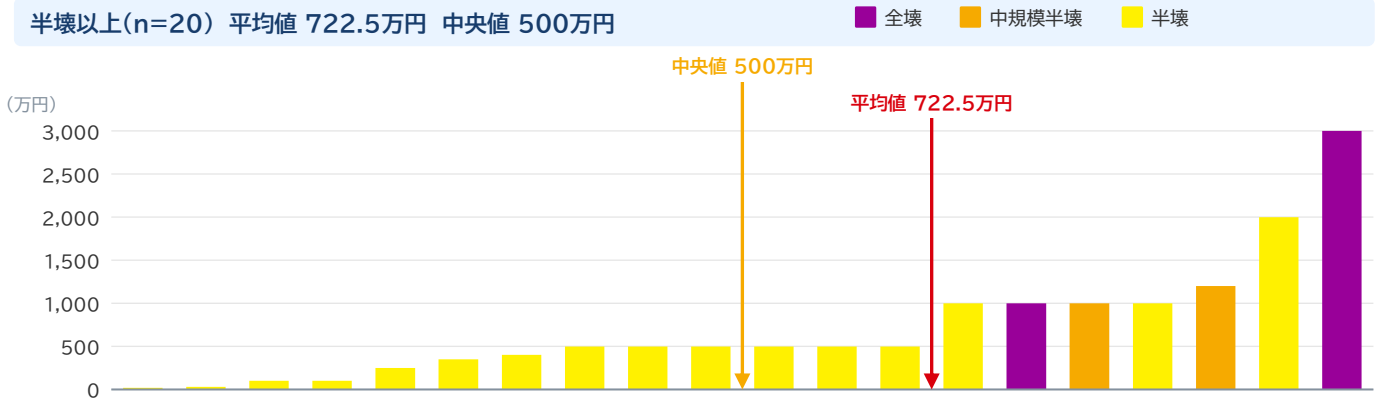
問14 × 問15

住家の被害額を、回答者1人ごとに金額の小さい順に棒で並べ、全体と住家の被害区分（問14）ごとに示します。矢印は平均値・中央値の位置です。

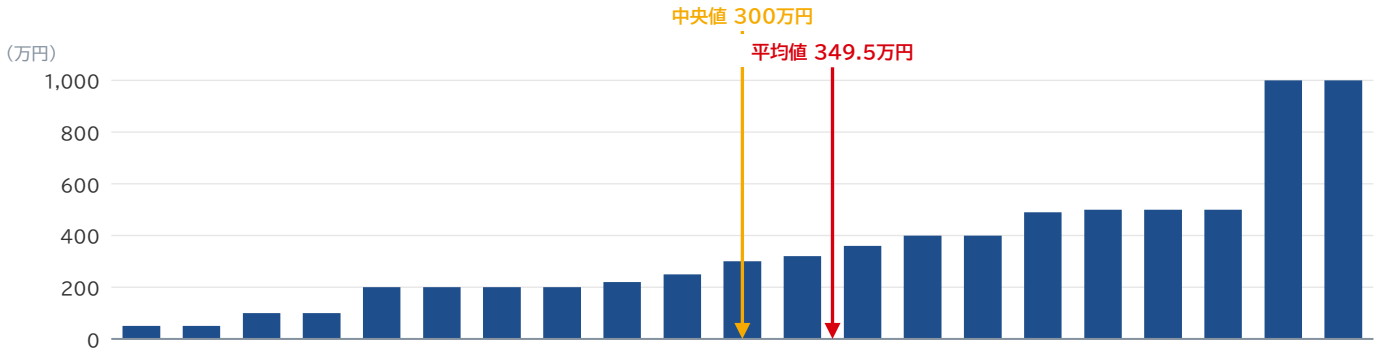
全体（n=195） 平均値 217.7万円 中央値 100万円



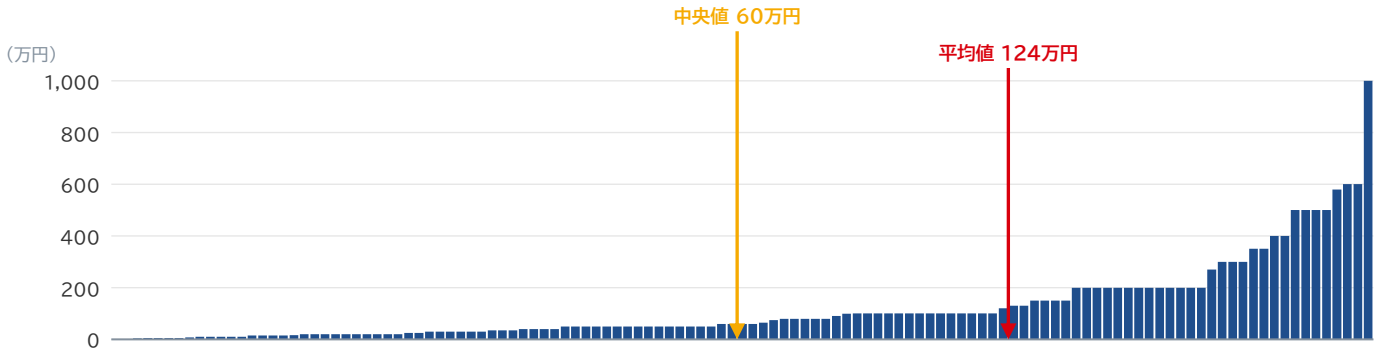
半壊以上（n=20） 平均値 722.5万円 中央値 500万円



準半壊（n=21） 平均値 349.5万円 中央値 300万円



一部損壊（n=121） 平均値 124万円 中央値 60万円



横軸：回答者（1人1本。金額の小さい順） 縦軸：被害額（万円）

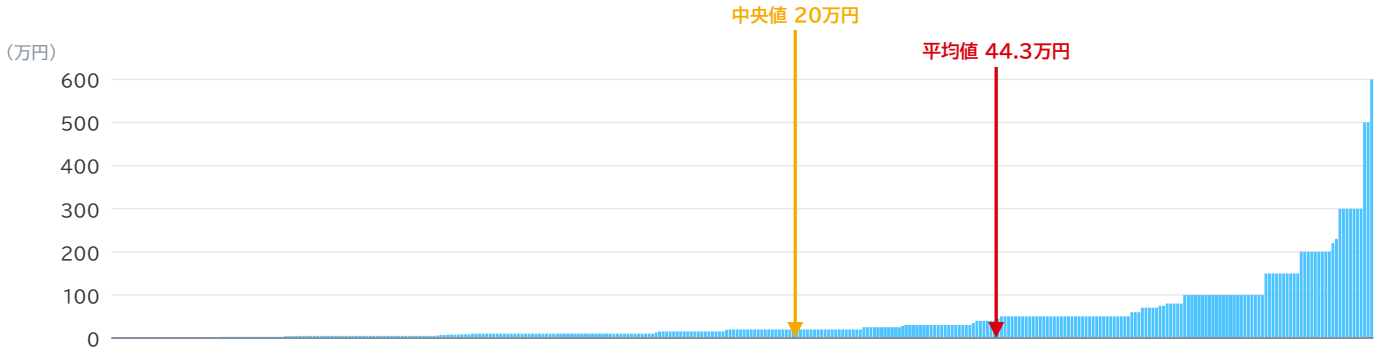
※ 対象は住家の被害額を記入した方（0より大きい回答。自己負担額が被害額を超える回答は除く）。「半壊以上」は全壊～半壊の合計で、棒の色でり災判定区分を示す。「全体」には「住家に被害はない」「わからない」「無回答」の方も含む。
※ 縦軸の尺度は区分ごとに異なる。平均値は一部の高額な回答の影響を受けやすく、中央値は回答を金額の小さい順に並べたときの真ん中の値。

問15（クロス集計） 被害額の分布（家財・家電）

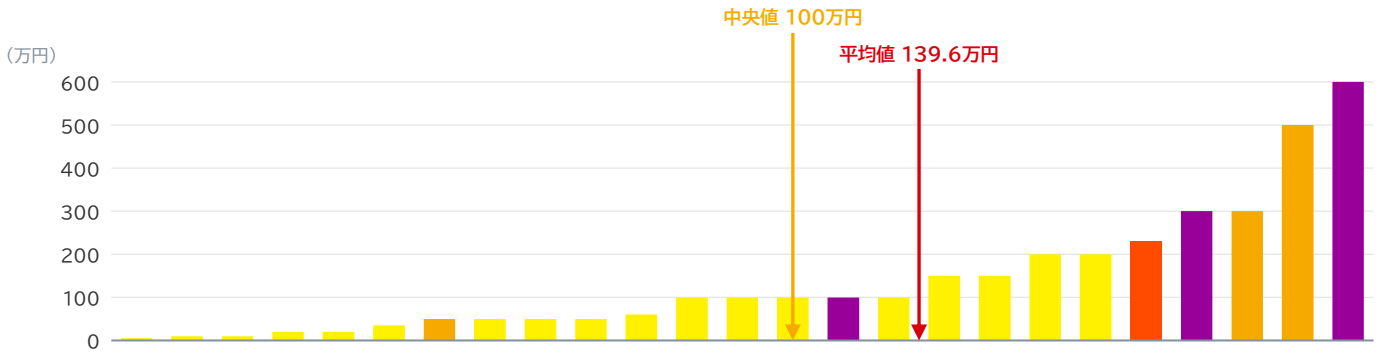
問14 × 問15

家財・家電の被害額を、回答者1人ごとに金額の小さい順に棒で並べ、全体と住家の被害区分（問14）ごとに示します。矢印は平均値・中央値の位置です。

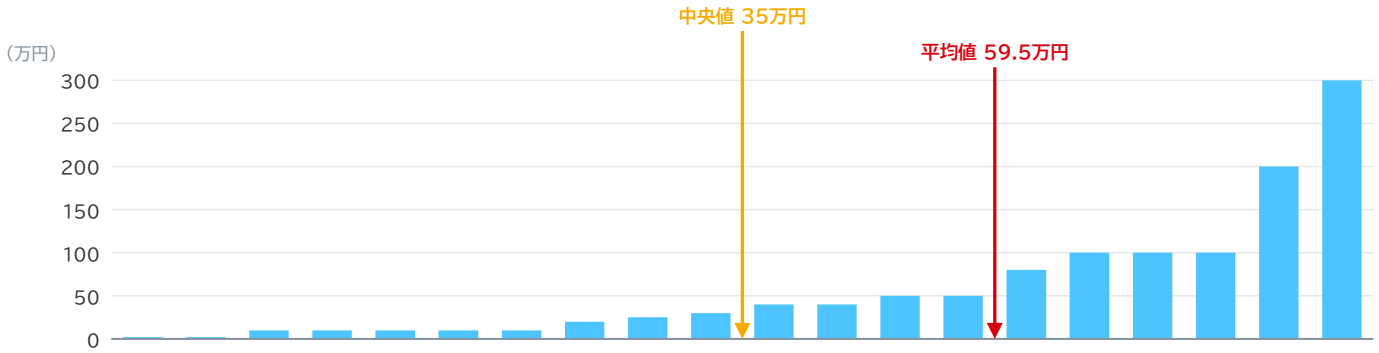
全体（n=358） 平均値 44.3万円 中央値 20万円



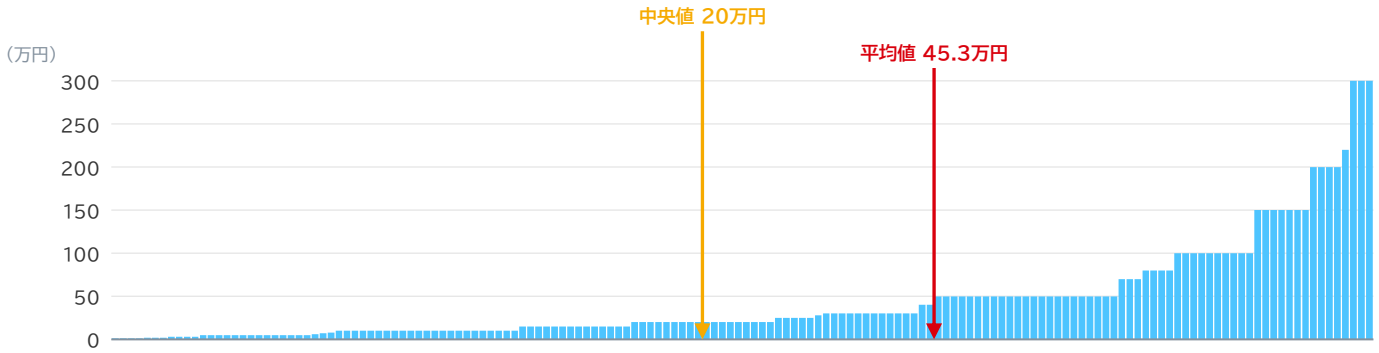
半壊以上（n=25） 平均値 139.6万円 中央値 100万円



準半壊（n=20） 平均値 59.5万円 中央値 35万円



一部損壊（n=158） 平均値 45.3万円 中央値 20万円



横軸：回答者（1人1本。金額の小さい順） 縦軸：被害額（万円）

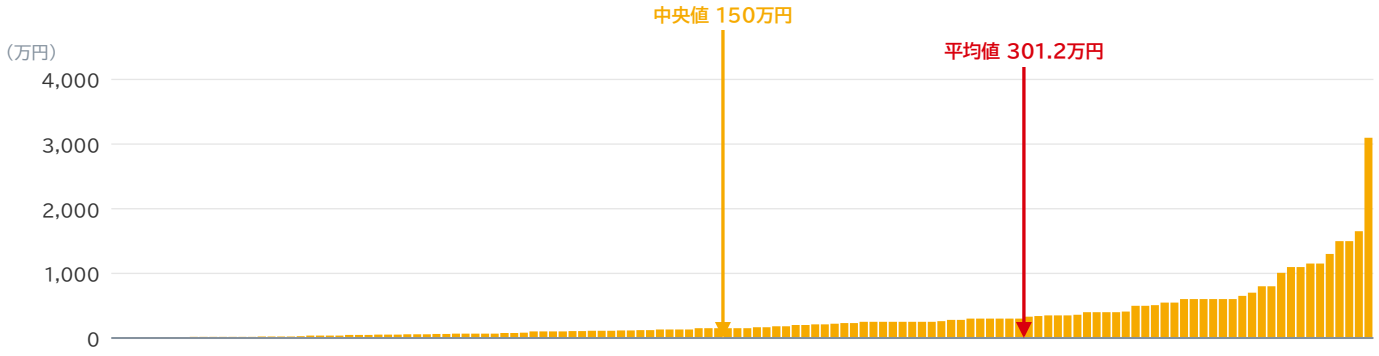
※ 対象は家財・家電の被害額を記入した方（0より大きい回答。自己負担額が被害額を超える回答は除く）。「半壊以上」は全壊～半壊の合計で、棒の色でり災判定区分を示す。「全体」には「住家に被害はない」「わからない」「無回答」の方も含む。
※ 縦軸の尺度は区分ごとに異なる。平均値は一部の高額な回答の影響を受けやすく、中央値は回答を金額の小さい順に並べたときの真ん中の値。

問15（クロス集計） 被害額の分布（両方に被害があった方（住家分＋家財分））

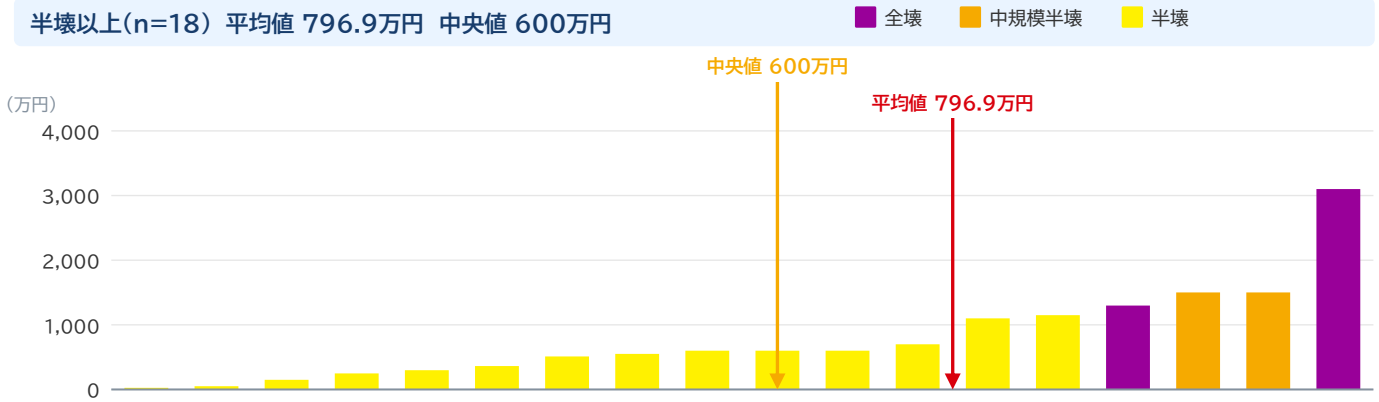
問14 × 問15

住家・家財の両方に被害があった方の被害額（住家分＋家財分）を、回答者1人ごとに金額の小さい順に棒で並べ、全体と住家の被害区分（問14）ごとに示します。矢印は平均値・中央値の位置です。

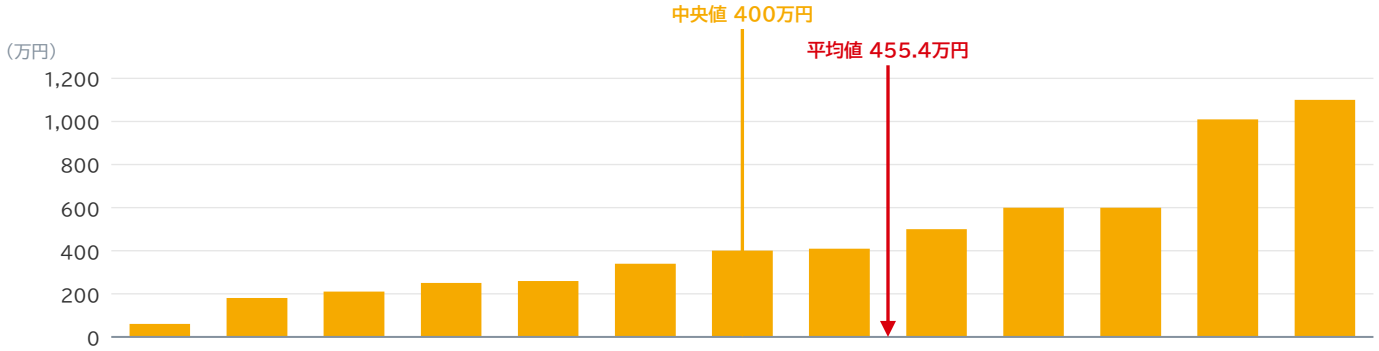
全体（n=130） 平均値 301.2万円 中央値 150万円



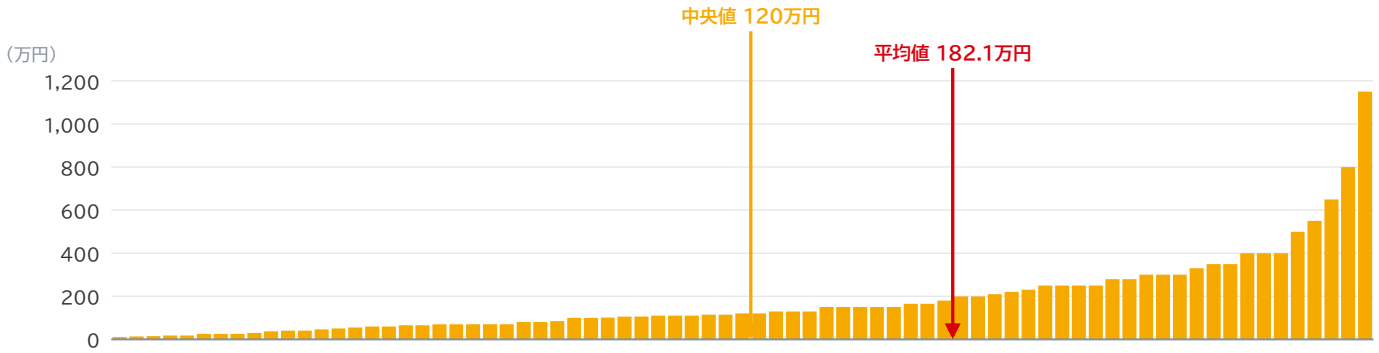
半壊以上（n=18） 平均値 796.9万円 中央値 600万円



準半壊（n=13） 平均値 455.4万円 中央値 400万円



一部損壊（n=75） 平均値 182.1万円 中央値 120万円



横軸：回答者（1人1本。金額の小さい順） 縦軸：被害額（万円）

※ 対象は住家・家財の両方の被害額を記入した方（0より大きい回答。自己負担額が被害額を超える回答は除く）。「半壊以上」は全壊～半壊の合計で、棒の色でり災判定区分を示す。「全体」には「住家に被害はない」「わからない」「無回答」の方も含む。
※ 縦軸の尺度は区分ごとに異なる。平均値は一部の高額な回答の影響を受けやすく、中央値は回答を金額の小さい順に並べたときの真ん中の値。

問15（続き） 被害額等の平均値・中央値と負担の内訳

被害額、行政の支援額＋保険等の補償額、自己負担額（予定を含む）の平均値と中央値です（単位：万円）。

平均値（万円）

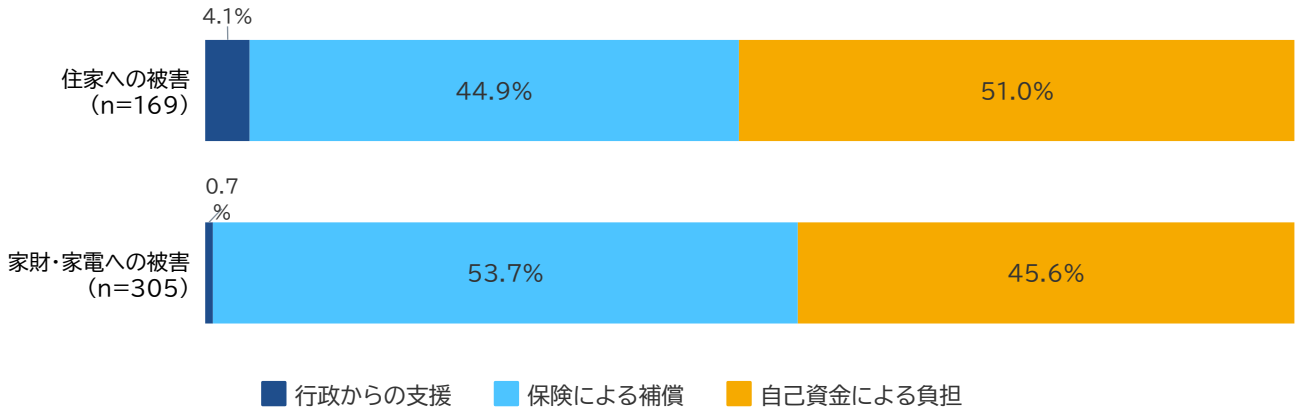
区分	被害額	行政の支援額＋保険等の補償額	自己負担額
住家	217.7（n=195）	92.2（n=162）	112.6（n=138）
家財・家電	44.3（n=358）	29.2（n=262）	25.5（n=252）
両方に被害があった方	**301.2（n=130）**	**144.4（n=114）**	**148.8（n=104）**

中央値（万円）

区分	被害額	行政の支援額＋保険等の補償額	自己負担額
住家	100（n=195）	30（n=162）	30（n=138）
家財・家電	20（n=358）	0（n=262）	10（n=252）
両方に被害があった方	**150（n=130）**	**50（n=114）**	**55（n=104）**

※ 回答者数（n）の考え方：各欄は、その行の被害額を記入した方のうち、その欄にも金額（0を含む）を記入した方が対象。記入のない欄は集計に含めないため、欄ごとに回答者数が異なる。
例：住家の「自己負担額」は、住家の被害額を記入した195人のうち自己負担額も記入した138人の値。家財・家電の「自己負担額」は358人のうち252人の値。
※「行政の支援額＋保険等の補償額」は、1人ごとに行政の支援額と保険等の補償額を足した額（片方だけ記入した方はその額）の平均値・中央値。
※ 住家・家財の各行には、両方に被害があった方の住家分・家財分も含む。「両方に被害があった方」の行は、住家と家財・家電の両方の被害額を記入した方だけを対象に、住家分と家財分を足した額。

支援・保険・自己負担の内訳（構成比）



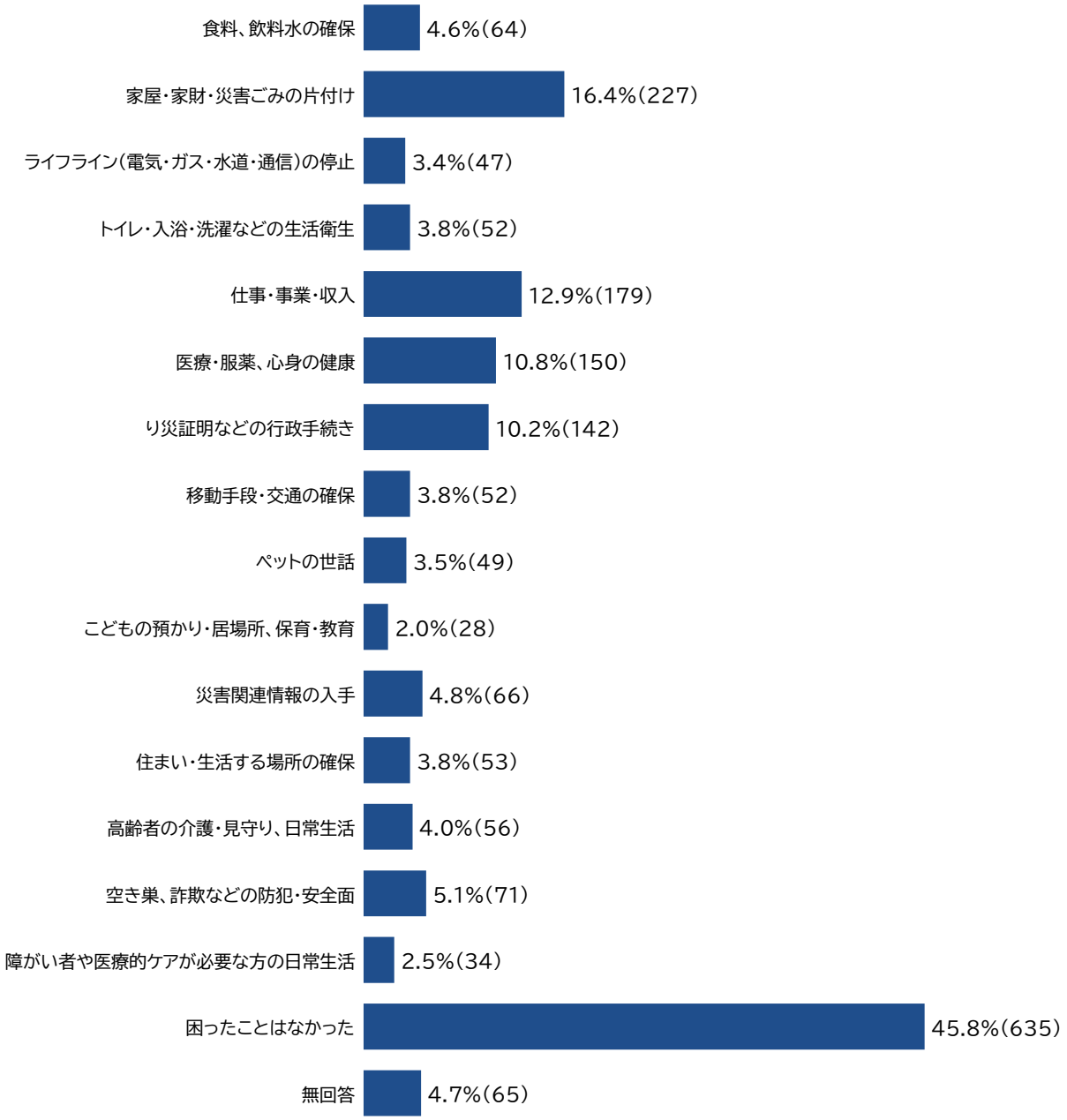
※ 行政からの支援・保険による補償・自己資金による負担の各合計の、3つの合計に対する割合。保険金が被害額を上回る場合があるため、被害額に対する割合ではなく構成比で示している。自己負担額が被害額を超える回答（住家6件、家財・家電20件）は集計から除いている。

全体結果

住家への被害では「自己資金による負担」が51.0%で最も大きく、次いで「保険による補償」（44.9%）、「行政からの支援」（4.1%）となっている。家財・家電への被害では「保険による補償」が53.7%で最も大きく、次いで「自己資金による負担」（45.6%）、「行政からの支援」（0.7%）となっている。

問16 現在、今回の地震に関連して困っている項目を全て選んでください。

（複数回答） n＝1,386（被災者） 数値＝回答率%（件数）



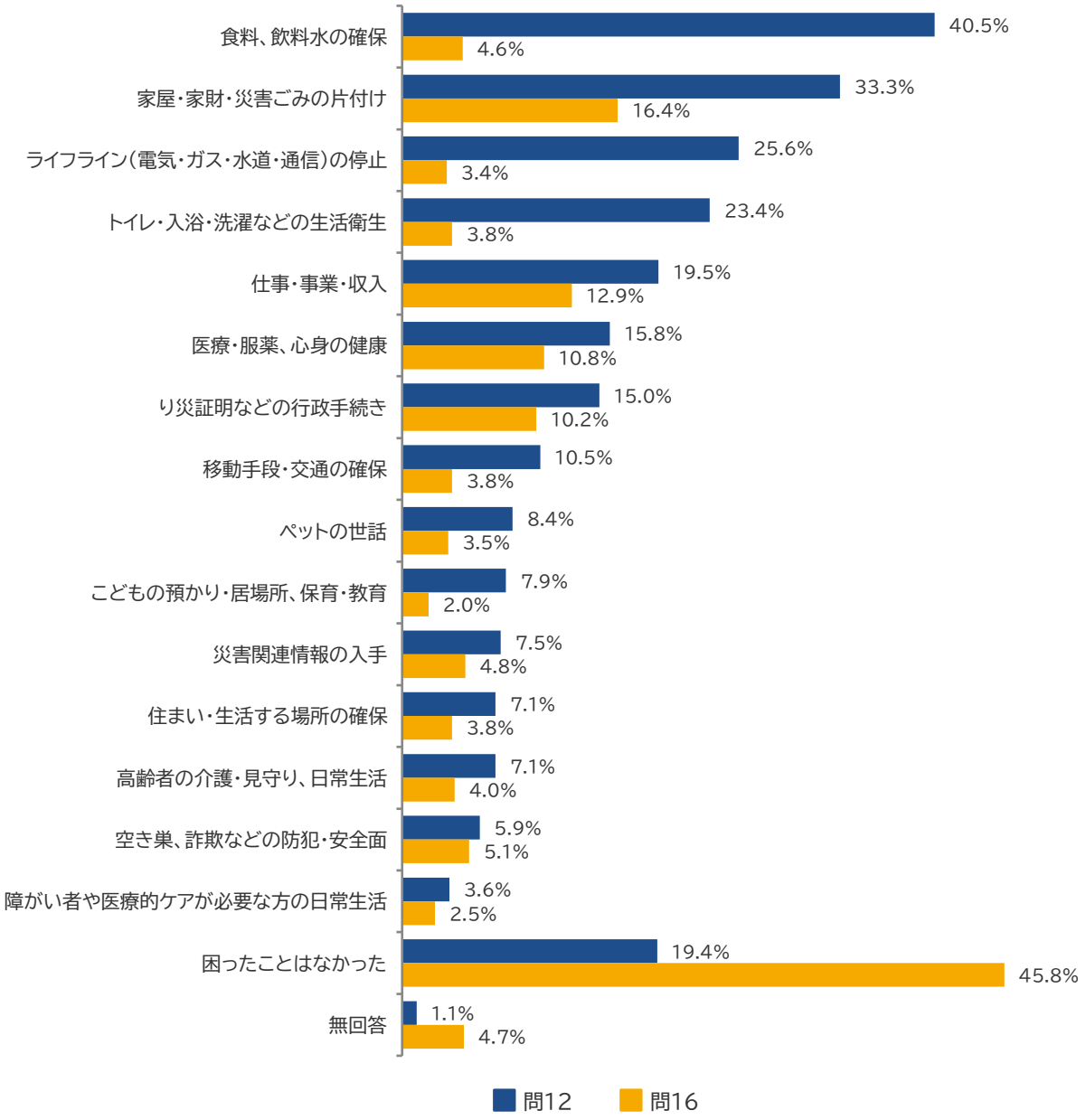
全体結果

「困ったことはなかった」を除く項目では「家屋・家財・災害ごみの片付け」が16.4%で最も高く、次いで「仕事・事業・収入」（12.9%）、「医療・服薬、心身の健康」（10.8%）となっている。「困ったことはなかった」は45.8%である。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「ライフライン（電気・ガス・水道・通信）の停止」＝「ライフライン（電気・ガス・水道・通信環境）の停止」、「障がい者や医療的ケアが必要な方の日常生活」＝「障がい者や医療的ケアを必要とする方の日常生活」、「ペットの世話」＝「ペットの世話（ペットがおり、避難できなかった場合を含む）」、「空き巣、詐欺などの防犯・安全面」＝「空き巣、詐欺、性犯罪などの防犯・安全面」

発災直後と現在の困りごとの比較(問12・問16)

発災直後からおおむね1週間の間に困ったこと(問12)と、現在困っていること(問16)を同じ並び順で比較しています。

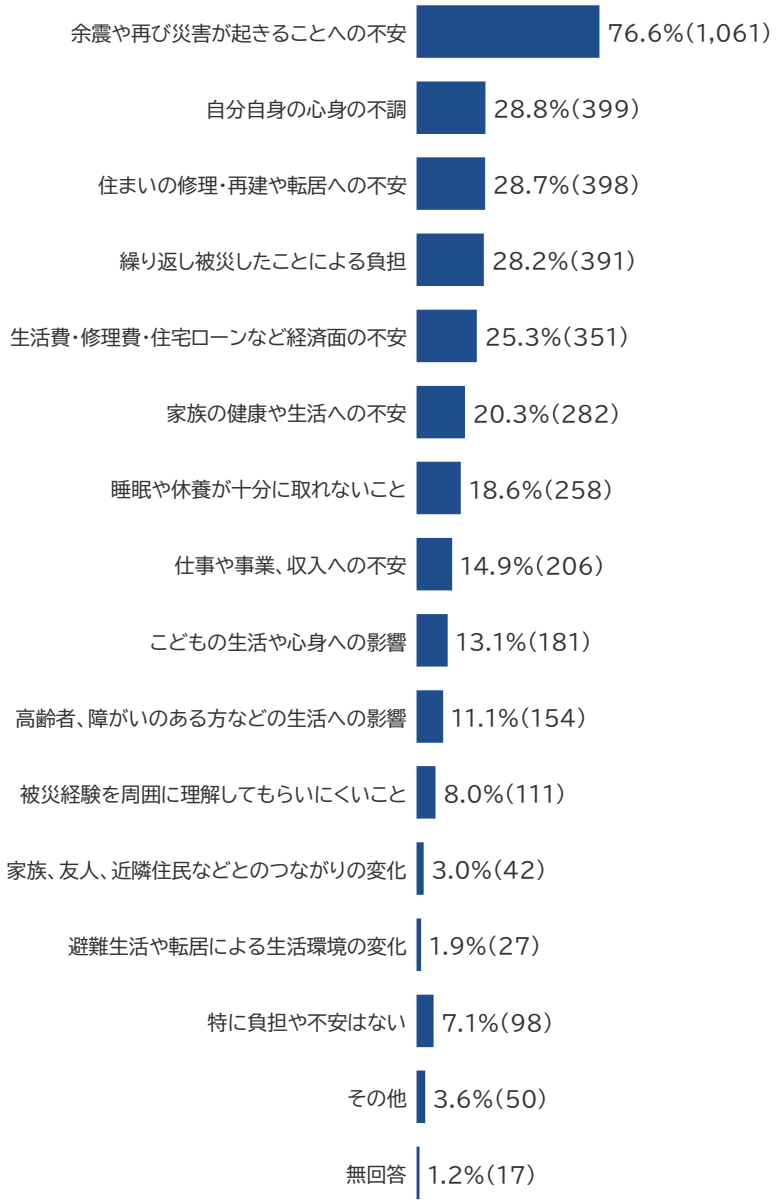


全体結果

個別の困りごとの項目は、発災直後に比べてすべて割合が低くなっている。食料・飲料水(35.9ポイント減)やライフライン(22.2ポイント減)は大きく下がった一方、片付け(16.4%)、仕事・事業・収入(12.9%)、医療・服薬、心身の健康(10.8%)、行政手続き(10.2%)は、現在も1割を超えている。

問17 今回の地震に関連して、現在も負担や不安に感じていることはありますか。

（複数回答） n＝1,386（被災者） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
交通渋滞・通勤の不便	6
り災判定・補償への不満	5
ペットの避難・ケア	5
空き家・実家等の被害	4
賃貸住宅の修繕対応	2
商業施設の休業	2
選択肢と同じ内容	18
その他	8
合計	50

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「余震や再び災害が起きることへの不安」が76.6%で最も高く、次いで「自分自身の心身の不調」（28.8%）、「住まいの修理・再建や転居への不安」（28.7%）となっている。
4番目の「繰り返し被災したことによる負担」も28.2%となっている。

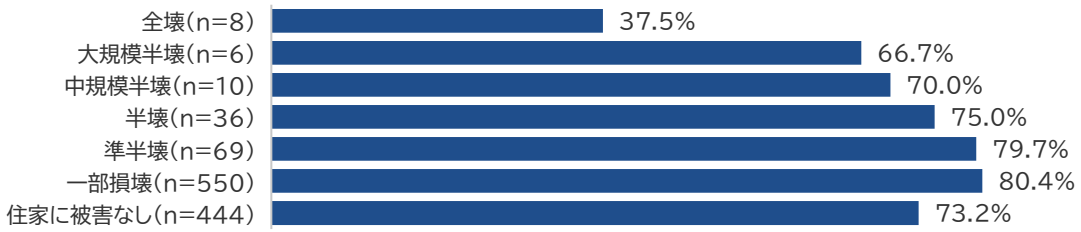
※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「生活費・修理費・住宅ローンなど経済面の不安」＝「生活費、修理費、住宅ローンなど経済面の不安」、「繰り返し被災したことによる負担」＝「過去にも災害を経験しており、繰り返し被災したことによる負担」

問17（クロス集計） 住家の被害程度別

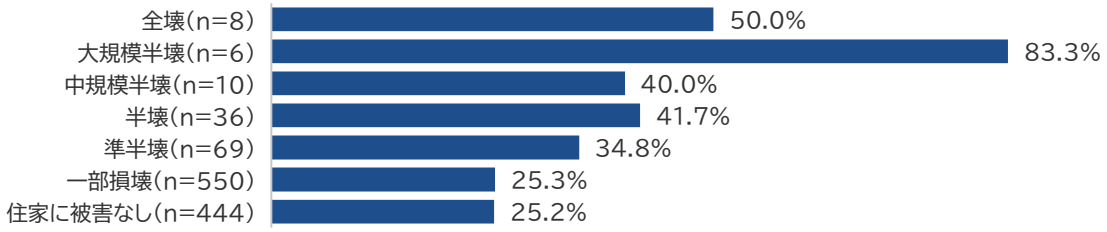
問14 × 問17

上位項目について、住家の被害程度別の回答率を示します（数値は%）。

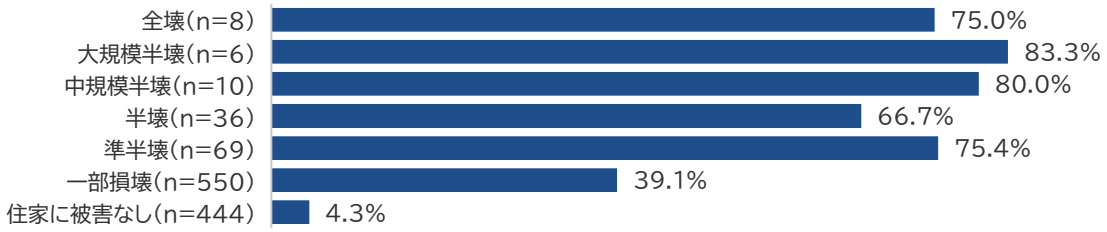
余震や再び災害が起きることへの不安



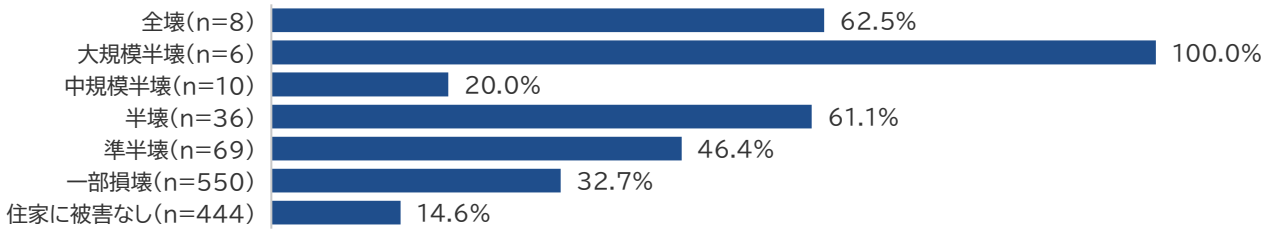
自分自身の心身の不調



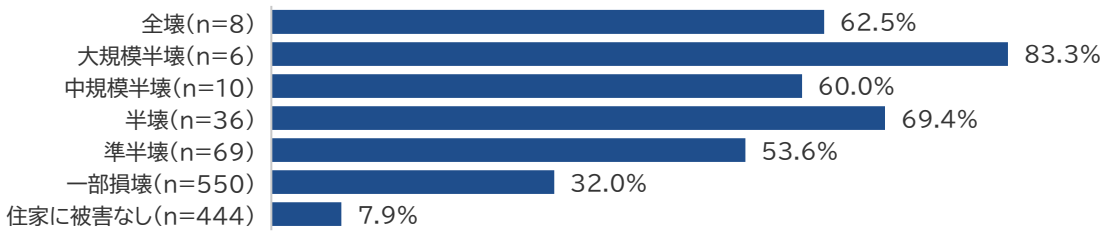
住まいの修理・再建や転居への不安



繰り返し被災したことによる負担



生活費・修理費・住宅ローンなど経済面の不安



属性別の結果

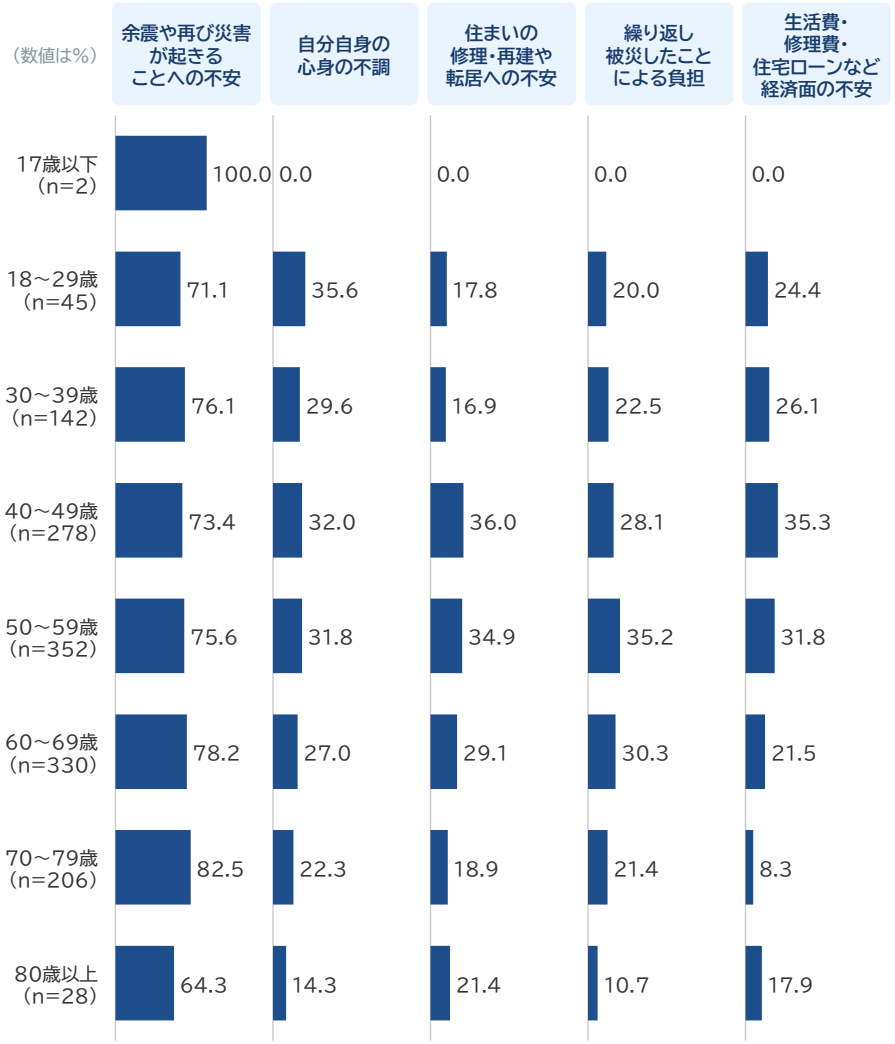
住まいの修理・再建や転居への不安は、全壊から準半壊までの各区分で66.7～83.3%と高く、一部損壊で39.1%、住家に被害なしでは4.3%となっている。経済面の不安も、全壊から準半壊までの各区分で53.6～83.3%と、一部損壊（32.0%）、住家に被害なし（7.9%）を大きく上回る。

問17（クロス集計） 年齢別にみた負担・不安

年齢別にみた現在の負担・不安（上位5項目、被災者 n=1,386）

年齢別にみた現在の負担・不安（上位5項目）

問2 × 問17

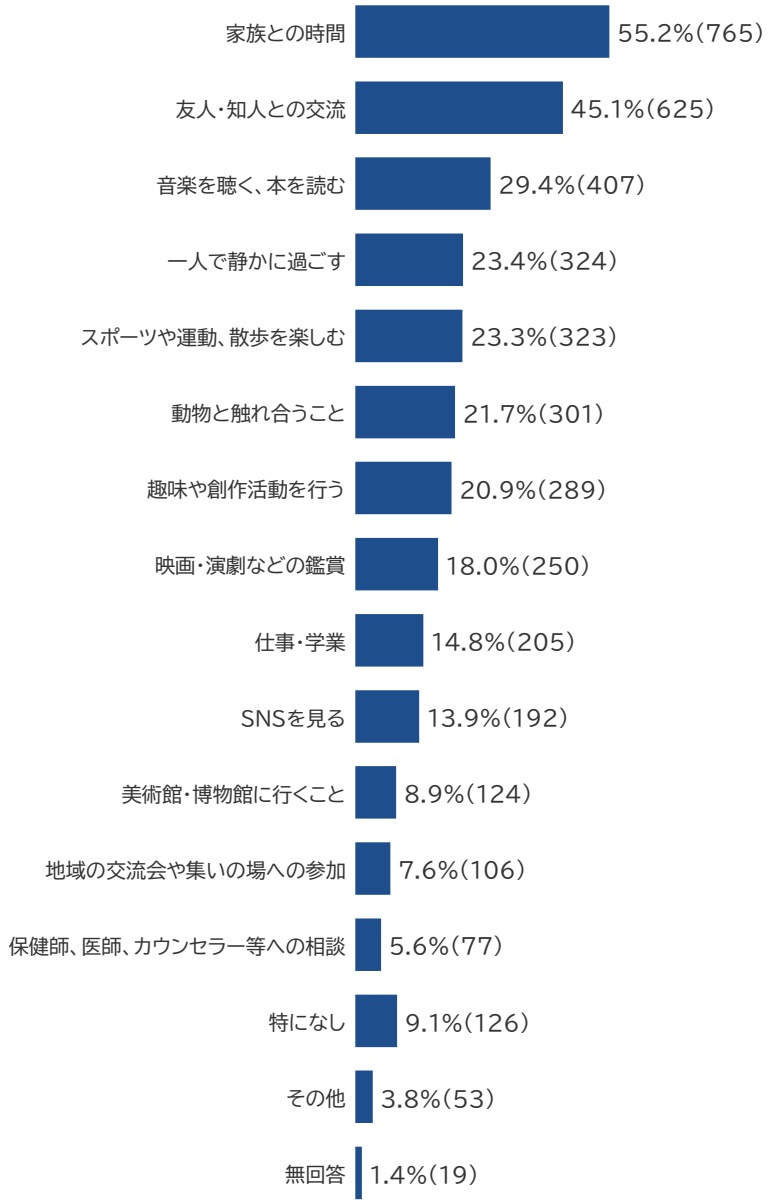


属性別の結果

余震への不安は、18～79歳のどの年代でも7割を超える。経済面の不安は40～49歳（35.3%）、50～59歳（31.8%）で高く、70～79歳では8.3%となっている。住まいの修理・再建や転居への不安も40～59歳で3割台と高い。

問18 今回の地震後、心の安らぎや気分転換につながると感じるものを選んでください。

（複数回答） n＝1,386（被災者） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
旅行・被災地外への外出	16
生活再建・経済的な支援	7
安らぎを感じる余裕がない	6
買い物・ショッピング	6
ドライブ・温泉	5
選択肢と同じ内容	5
その他	8
合計	53

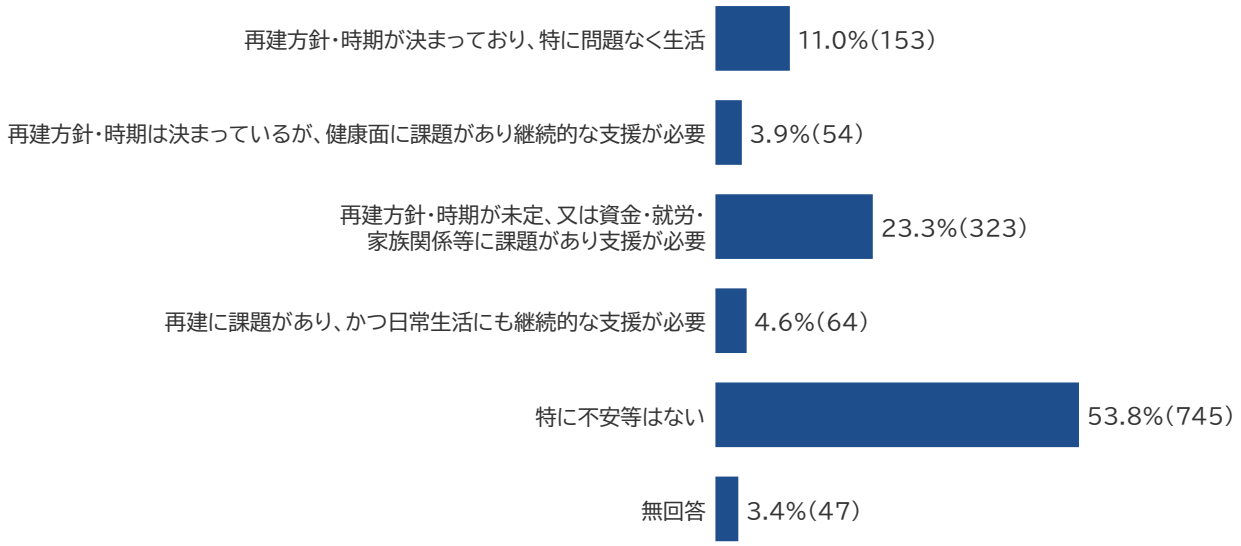
※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「家族との時間」が55.2%で最も高く、次いで「友人・知人との交流」（45.1%）、「音楽を聴く、本を読む」（29.4%）となっている。

問19 あなたの住まいの再建(修理や転居等を含む)や不安なことについて、現在の状況に最も近いものを選んでください。

(単一回答) n=1,386(被災者) 数値=構成比%(件数)



全体結果

「特に不安等はない」が53.8%で最も多く、次いで「再建方針・時期が未定、又は資金・就労・家族関係等に課題があり支援が必要」(23.3%)、「再建方針・時期が決まっており、特に問題なく生活」(11.0%)となっている。何らかの支援を必要とする方は計31.8%にのぼる。

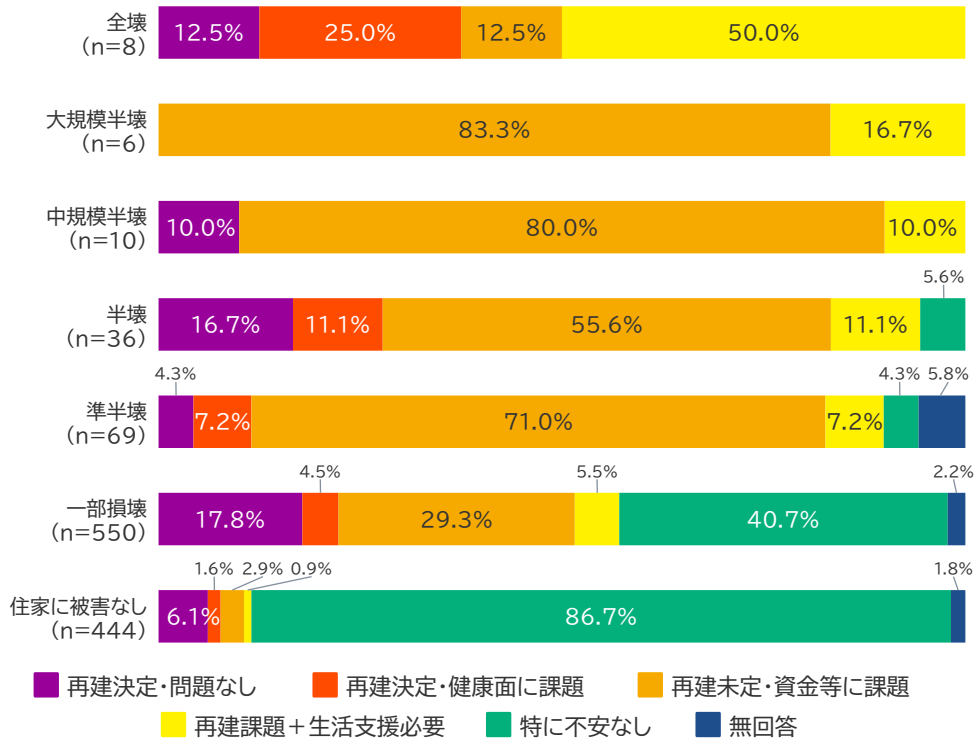
※ 選択肢の略称(グラフ上の表示=アンケートの原文):「再建方針・時期が決まっており、特に問題なく生活」=「住まいの再建方針や再建時期が決まっており、特に大きな問題はなく日常生活を送っている」、「再建方針・時期は決まっているが、健康面に課題があり継続的な支援が必要」=「住まいの再建方針や再建時期は決まっているが、主に心身の健康面に課題を抱えており、日常生活において継続的に支援が必要」、「再建方針・時期が未定、又は資金・就労・家族関係等に課題があり支援が必要」=「住まいの再建方針または再建時期が未定である、又は資金面・就労・家族関係等に課題を抱えているため支援が必要」、「再建に課題があり、かつ日常生活にも継続的な支援が必要」=「住まいの再建に関して課題を抱えており、かつ、日常生活においても継続的に支援が必要」

問19（クロス集計） 住家の被害程度別にみた住まいの再建状況

住家の被害程度（問14）別にみた住まいの再建状況（被災者 n=1,386）

住家の被害程度別にみた住まいの再建状況

問14 × 問19



属性別の結果

大規模半壊・中規模半壊では、再建未定・資金等に課題がある人が8割を占める。全壊では再建課題に加え生活支援も必要な人が半数となっている。半壊・準半壊でも再建未定・資金等に課題がある人が5～7割を占める。

Ⅲ 全市民への質問

すべての回答者にお聞きしました（問20～問26）

問20 情報の入手先 …… 36

問21 事前に備えていたこと …… 38

問22 今後強化したい備え …… 39

比較：備えの実施と強化意向 …… 40

問23 周りの人と取り組めること …… 41

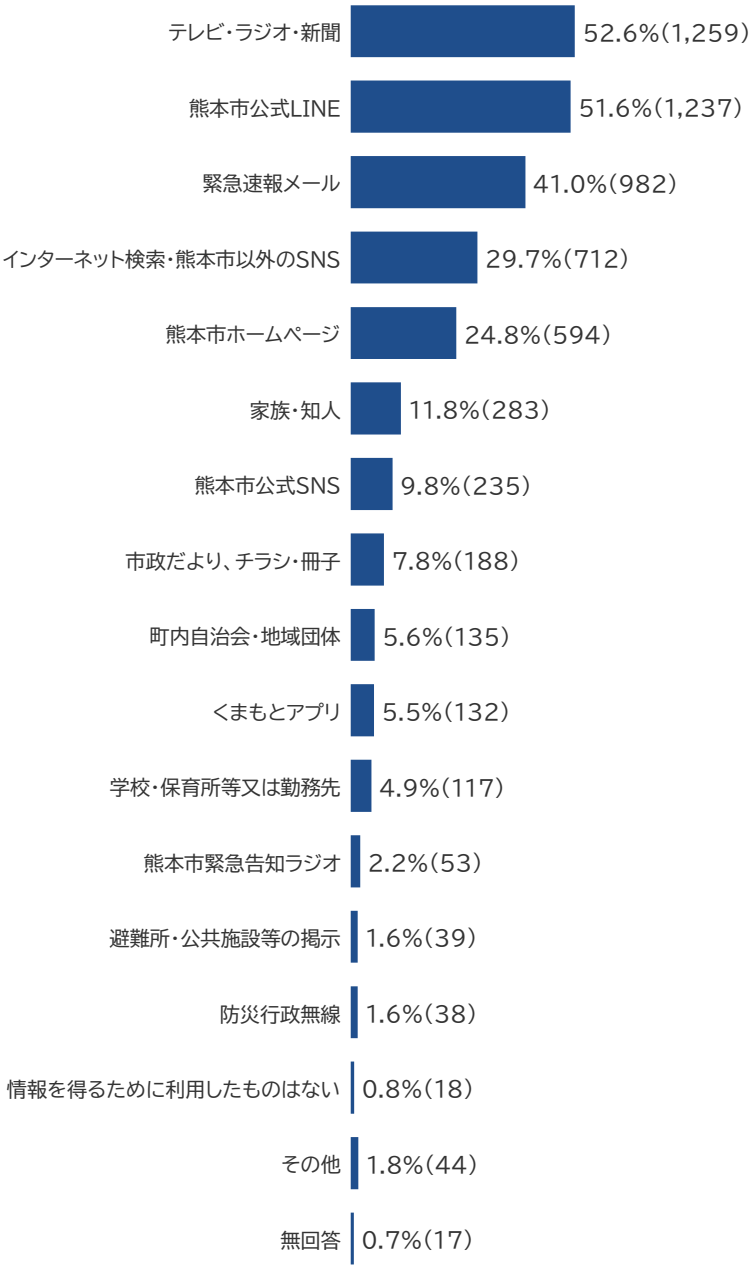
問24 復旧・復興で重要なこと …… 42

問25 市が力を入れるべきこと …… 44

問26 ご意見・ご提案（自由記述） …… 46

問20 今回の地震に関する情報をどこから得ましたか。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
防災・気象アプリ	13
市長のSNS	9
自身の体感・経験	7
気象庁等のWebサイト	3
熊本県の情報	2
選択肢と同じ内容	7
その他	2
特になし・不明	1
合計	**44**

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「テレビ・ラジオ・新聞」が52.6%で最も高く、次いで「熊本市公式LINE」（51.6%）、「緊急速報メール」（41.0%）となっている。
熊本市の媒体のうち「熊本市公式LINE」（51.6%）は、「テレビ・ラジオ・新聞」（52.6%）と同程度の割合で利用されている。

問20（クロス集計） 年齢別

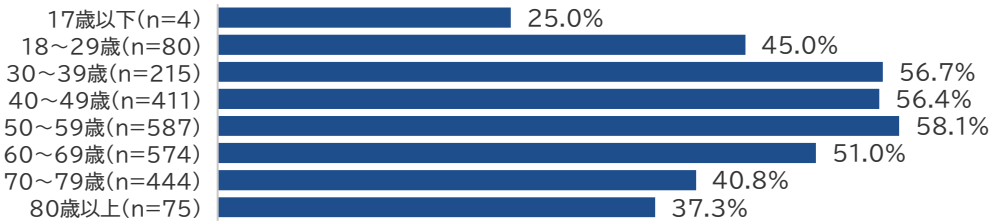
問2 × 問20

上位項目について、年齢別の回答率を示します（数値は%）。

テレビ・ラジオ・新聞



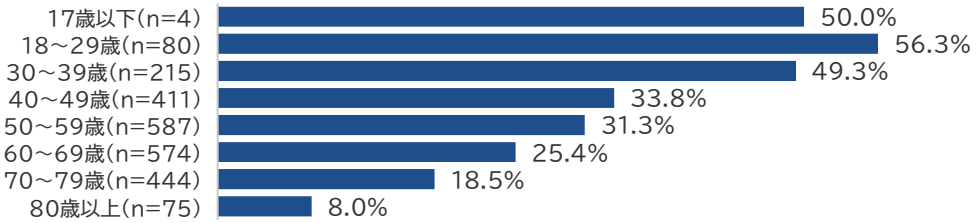
熊本市公式LINE



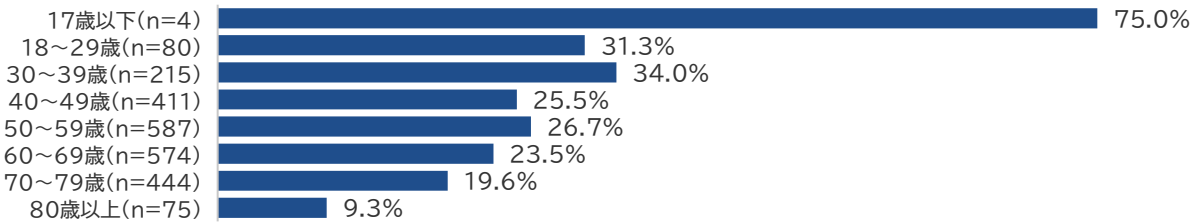
緊急速報メール



インターネット検索・熊本市以外のSNS



熊本市ホームページ

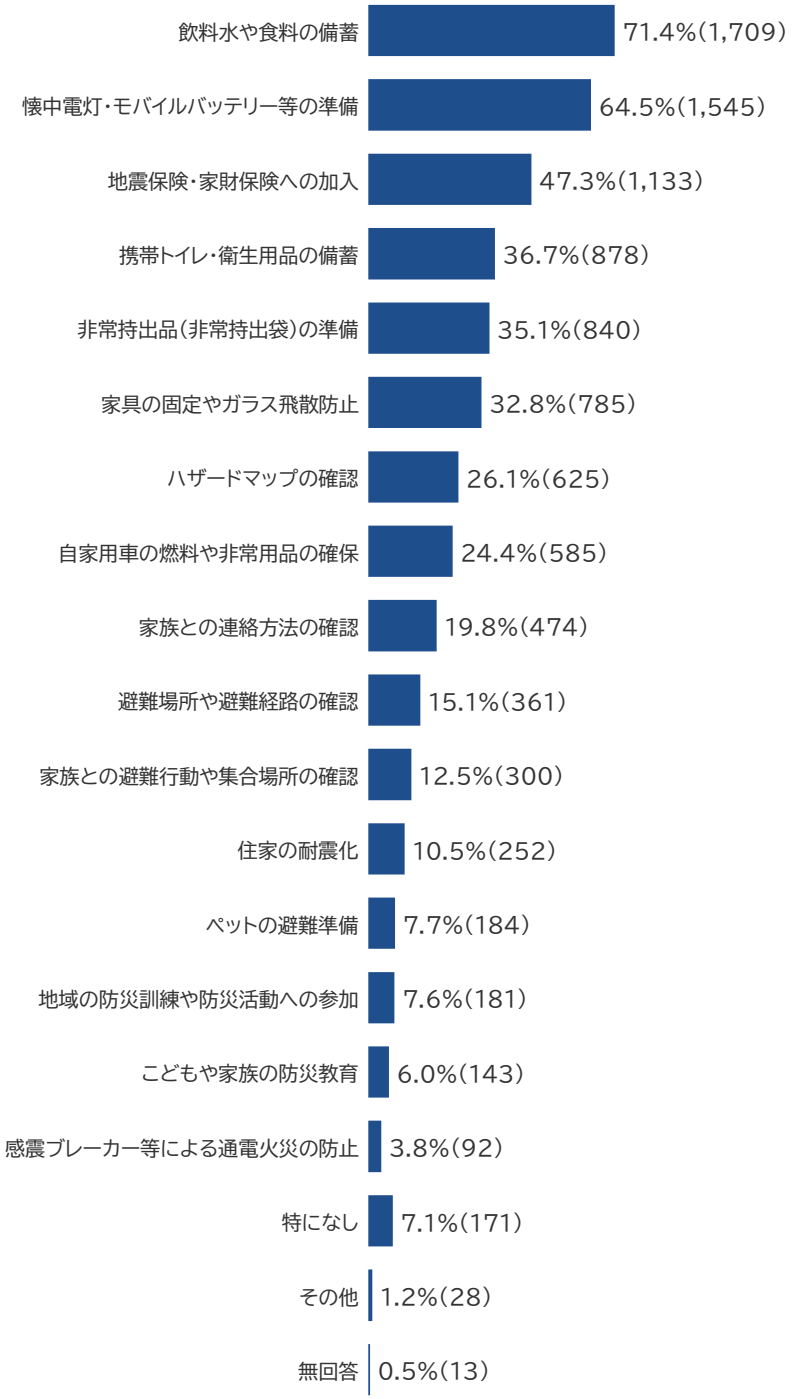


属性別の結果

テレビ・ラジオ・新聞（70～79歳 67.6%、80歳以上 64.0%）と緊急速報メール（70～79歳 51.4%）は70歳以上で高い。インターネット検索・SNSは18～29歳（56.3%）から80歳以上（8.0%）まで年齢が上がるほど低く、熊本市ホームページも30～39歳（34.0%）から80歳以上（9.3%）にかけて低い傾向がある。熊本市公式LINEは30～59歳で6割近く（56.4～58.1%）を占める。

問21 10年前の平成28年熊本地震を含む過去の被災経験を踏まえて、ご自身やご家族で事前に備えていたことはありますか。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
前回地震は未経験	4
非常用電源の確保	3
物を減らす・置かない	3
常備薬の準備	3
選択肢と同じ内容	6
その他	8
特になし・不明	1
合計	28

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

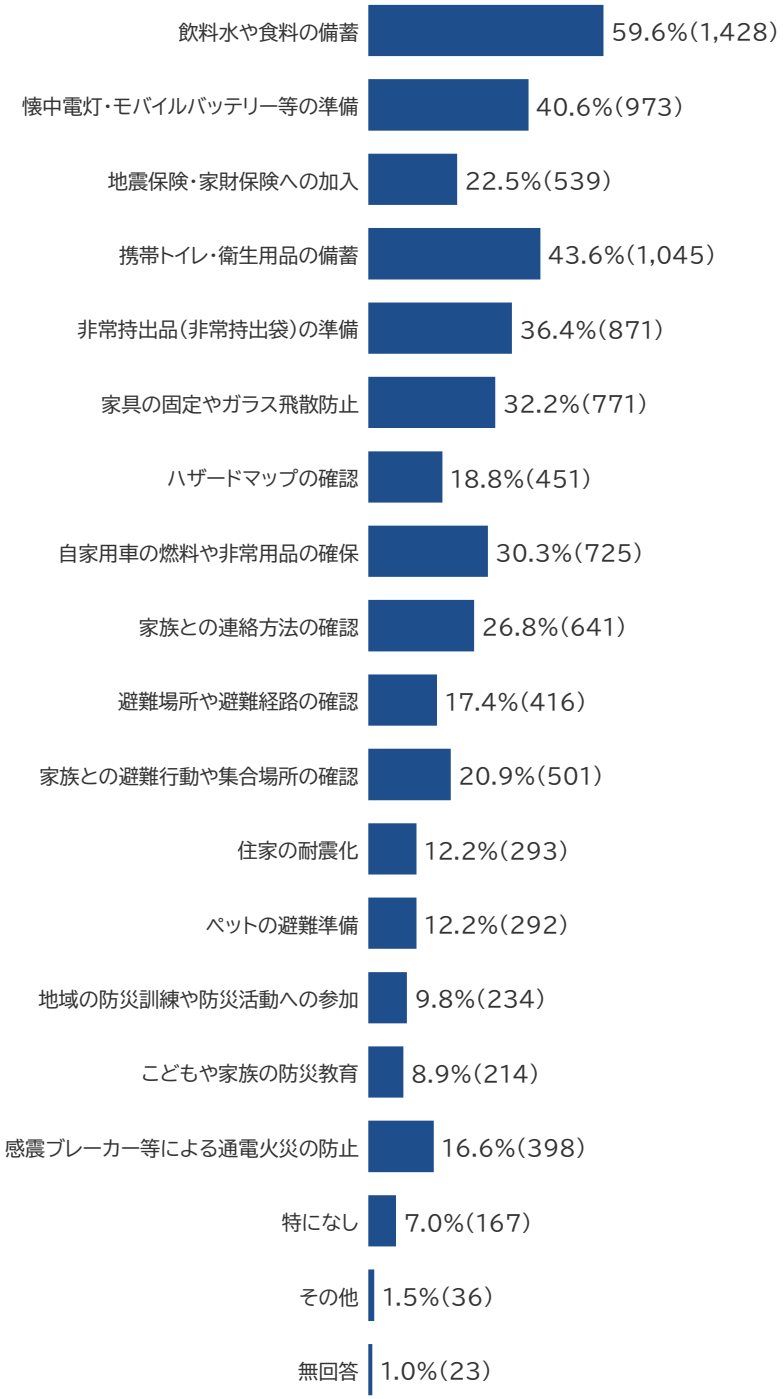
全体結果

「飲料水や食料の備蓄」が71.4%で最も高く、次いで「懐中電灯・モバイルバッテリー等の準備」（64.5%）、「地震保険・家財保険への加入」（47.3%）となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「家具の固定やガラス飛散防止」＝「家具の固定やガラス飛散防止などの対策」、「感震ブレーカー等による通電火災の防止」＝「感震ブレーカーの設置などによる通電火災の防止」

問22 今回の令和8年熊本地震を受けて、今後ご自身やご家族で強化したいと考えている備えや対策はありますか。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
貯蓄・生活資金の確保	5
水・車中泊用品の確保	4
非常用電源の確保	4
家族の見守り体制	3
転居・住まいの見直し	3
選択肢と同じ内容	5
その他	10
特になし・不明	2
合計	**36**

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

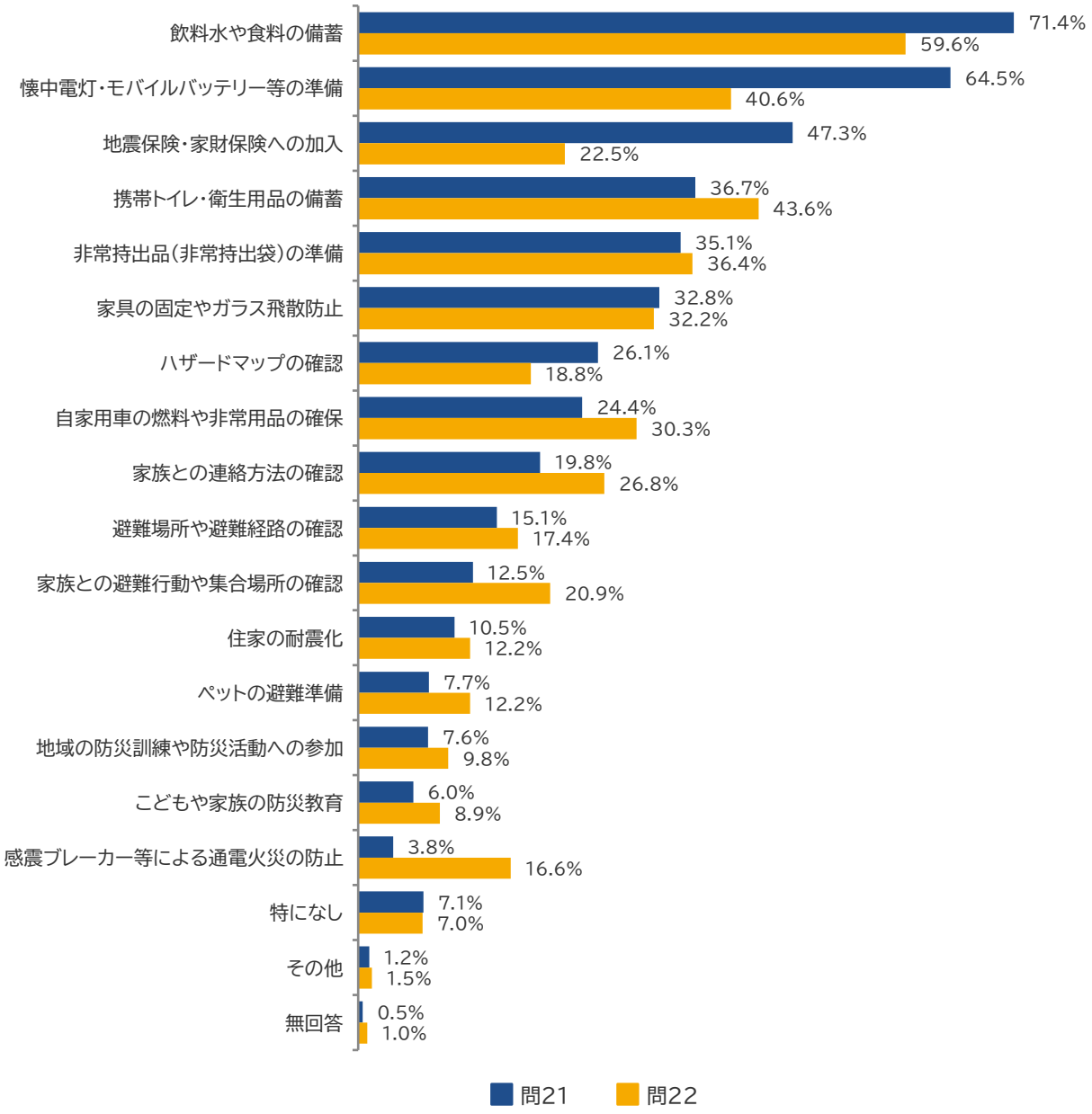
全体結果

「飲料水や食料の備蓄」が59.6%で最も高く、次いで「携帯トイレ・衛生用品の備蓄」（43.6%）、「懐中電灯・モバイルバッテリー等の準備」（40.6%）となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「家具の固定やガラス飛散防止」＝「家具の固定やガラス飛散防止などの対策」、「感震ブレーカー等による通電火災の防止」＝「感震ブレーカーの設置などによる通電火災の防止」

備えの実施状況と今後の強化意向の比較(問21・問22)

事前に備えていたこと(問21)と、今後強化したい備え(問22)を同じ並び順で比較しています。今後の強化意向が事前の実施率を上回る項目と、下回る項目があります。

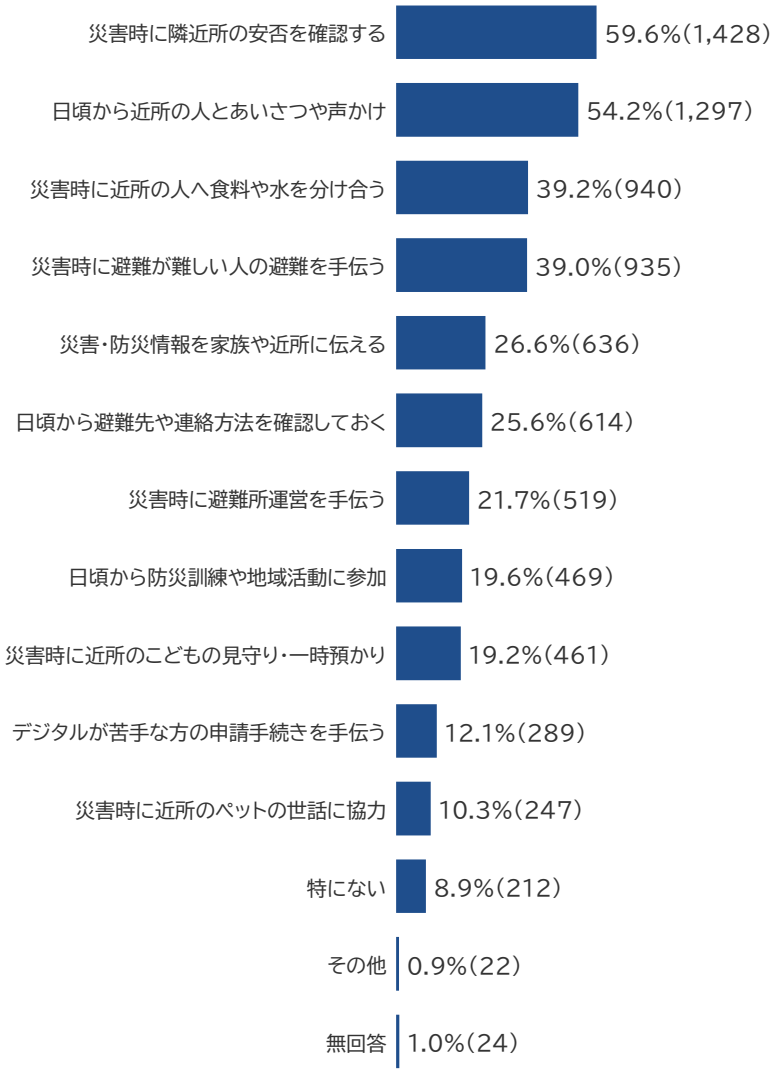


全体結果

携帯トイレ・衛生用品の備蓄は、事前の備え(問21:36.7%)を上回る43.6%が今後強化したいと回答している。
感震ブレーカーは、事前の備えより12.8ポイント高くなっている。

問23 災害に強いまちづくりに向けて、あなたが周りの人たちと一緒に取り組めることはなんですか。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
自身の事情で余裕がない	6
行政への要望	4
取り組み方が分からない	3
地域のつながりの課題	3
専門性を活かした支援	3
選択肢と同じ内容	1
その他	2
合計	22

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

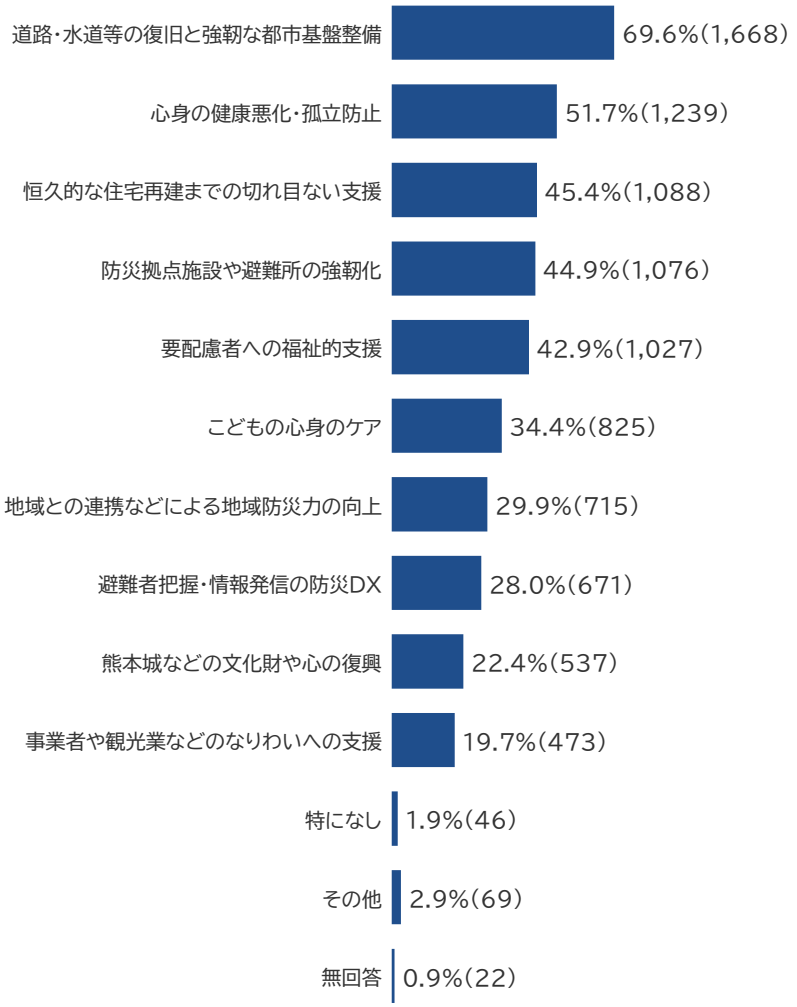
全体結果

「災害時に隣近所の安否を確認する」が59.6%で最も高く、次いで「日頃から近所の人とあいさつや声かけ」(54.2%)、「災害時に近所の人へ食料や水を分け合う」(39.2%)となっている。

※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）:「災害時に隣近所の安否を確認する」＝「災害時に隣近所の人の安否を確認する」、「災害時に近所のこどもの見守り・一時預かり」＝「災害時に近所のこどもの見守りや一時的な預かりに協力する」、「災害時に近所のペットの世話に協力」＝「災害時に近所が飼っているペットのお世話に協力する」、「災害時に避難所運営を手伝う」＝「災害時に避難所の運営の手伝いをする」、「災害・防災情報を家族や近所に伝える」＝「災害情報や防災情報を家族や近所の人に伝える」、「デジタルが苦手な方の申請手続きを手伝う」＝「デジタルツールを使うことが難しい方のり災証明書や各種支援制度のオンライン申請を手伝う」、「日頃から防災訓練や地域活動に参加」＝「日頃から地域の防災訓練や地域活動に参加する」、「日頃から避難先や連絡方法を確認しておく」＝「日頃から家族や近所の人と避難先や連絡方法を確認しておく」、「日頃から近所の人とあいさつや声かけ」＝「日頃から近所の人とあいさつや声かけを行う」

問24 今回の地震からの復旧・復興を進める上で、重要だと思うものを選んでください。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
避難所の環境・運営改善	11
被災者への経済的支援	9
行政窓口・手続の充実	7
復興予算の使途見直し	5
住宅の耐震化・建替え支援	5
失業・就労面の支援	4
交通渋滞対策	3
支援者・職員への配慮	3
選択肢と同じ内容	9
その他	13
合計	69

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「道路・水道等の復旧と強靭な都市基盤整備」が69.6%で最も高く、次いで「心身の健康悪化・孤立防止」（51.7%）、「恒久的な住宅再建までの切れ目ない支援」（45.4%）となっている。

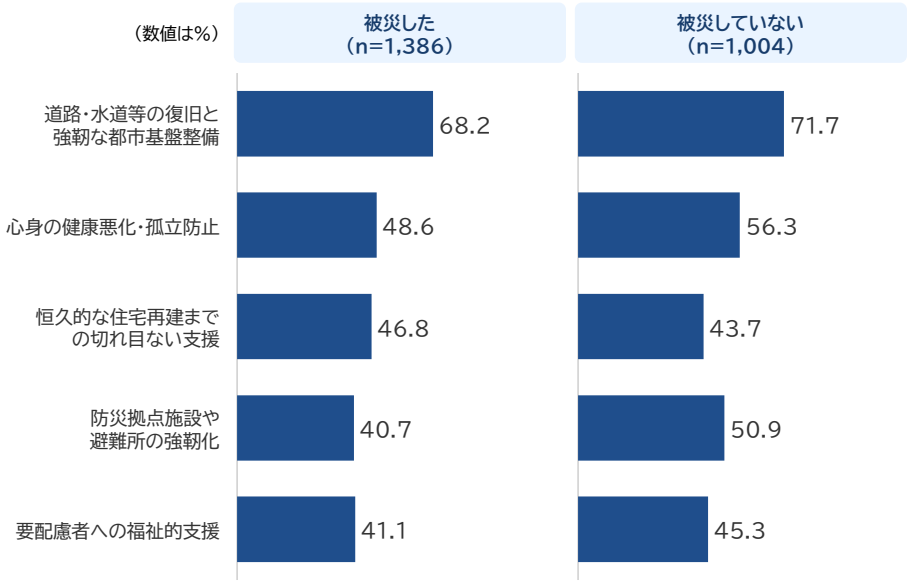
※ 選択肢の略称（グラフ上の表示＝アンケートの原文）：「道路・水道等の復旧と強靭な都市基盤整備」＝「道路・橋梁・水道・下水道などの復旧と強靭な都市基盤整備」、「避難者把握・情報発信の防災DX」＝「避難者の把握、情報発信などを迅速に行う防災DX（デジタルトランスフォーメーション）」

問24（クロス集計） 被災の有無別にみた復旧・復興で重要なこと

被災の有無別にみた復旧・復興で重要なこと（上位5項目、全体）

被災の有無別にみた復旧・復興で重要なこと（上位5項目）

問6 × 問24

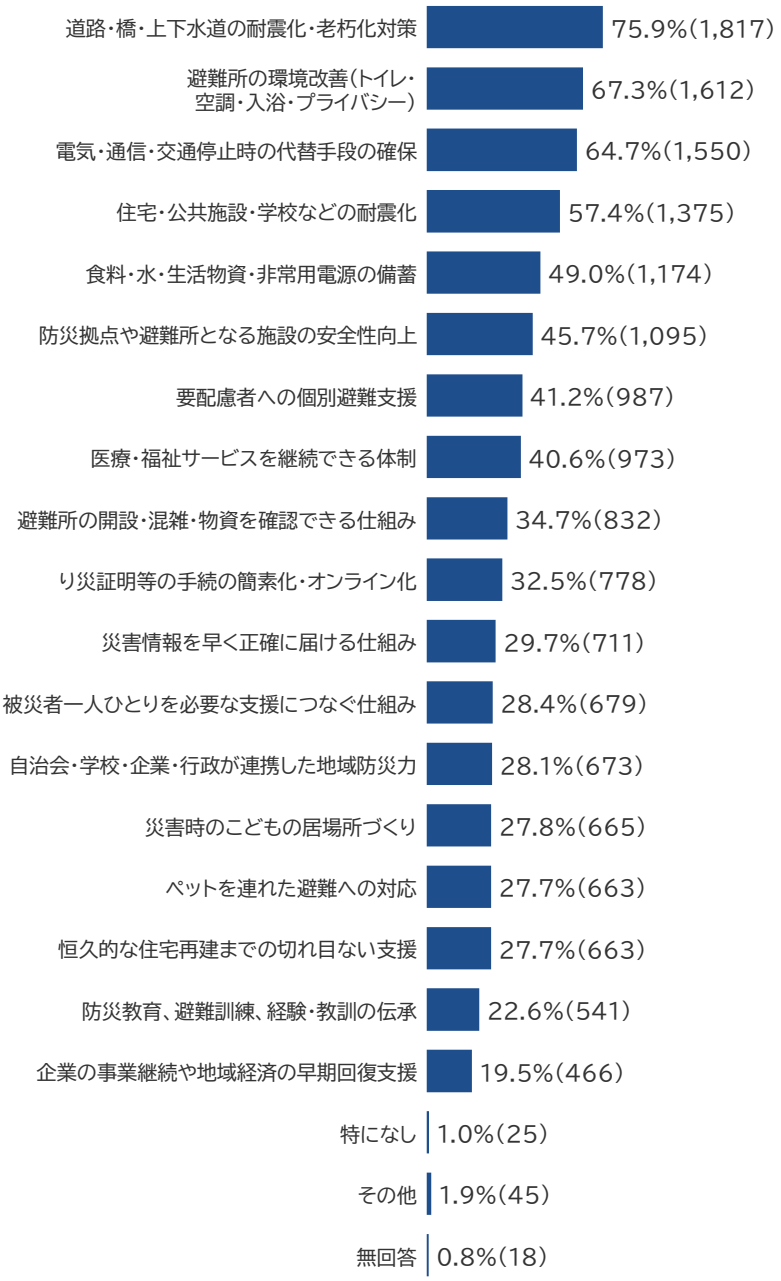


属性別の結果

被災していない方は、心身の健康悪化・孤立防止（56.3%）と防災拠点施設や避難所の強靭化（50.9%）が、被災者より高い。被災者は、住宅再建までの支援（46.8%）がやや高い。

問25 これまでの災害を踏まえて、熊本市が災害に強いまちになるために、力を入れるべきことを選んでください。

（複数回答） n＝2,395（全体） 数値＝回答率%（件数）



「その他」の内容	件数
渋滞・交通インフラ対策	6
防犯・犯罪対策	4
財政支出の見直し	3
避難所・防災公園の増設	3
金銭・雇用の支援	3
選択肢と同じ内容	12
その他	10
特になし・不明	4
合計	45

※「その他」欄の記述を内容でまとめたもの

全体結果

「道路・橋・上下水道の耐震化・老朽化対策」が75.9%で最も高く、次いで「避難所の環境改善(トイレ・空調・入浴・プライバシー)」(67.3%)、「電気・通信・交通停止時の代替手段の確保」(64.7%)となっている。

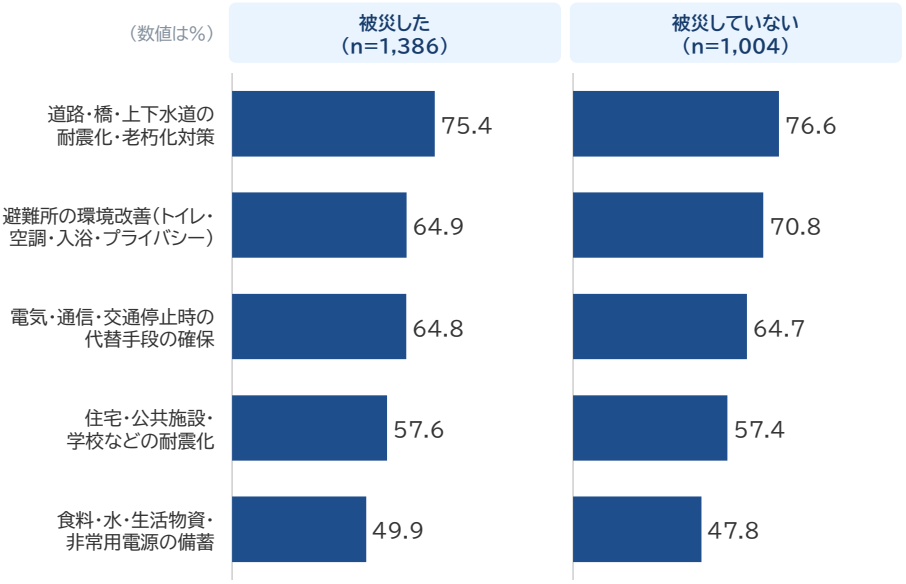
※ 選択肢の略称(グラフ上の表示＝アンケートの原文):「住宅・公共施設・学校などの耐震化」＝「住宅、公共施設、学校などの耐震化」、「道路・橋・上下水道の耐震化・老朽化対策」＝「道路、橋、上下水道などの耐震化・老朽化対策」、「電気・通信・交通停止時の代替手段の確保」＝「電気、通信、交通が停止した場合の代替手段の確保」、「避難所の環境改善(トイレ・空調・入浴・プライバシー)」＝「避難所のトイレ、空調、入浴、プライバシーなどの環境改善」、「食料・水・生活物資・非常用電源の備蓄」＝「食料、飲料水、生活物資、非常用電源などの備蓄」、「要配慮者への個別避難支援」＝「要配慮者(高齢者、障がいのある方、妊産婦、乳幼児)への個別避難支援」、「医療・福祉サービスを継続できる体制」＝「医療・福祉サービスを災害時にも継続できる体制」、「避難所の開設・混雑・物資を確認できる仕組み」＝「避難所の開設状況、混雑状況、支援物資などを確認できる仕組み」、「り災証明等の手続の簡素化・オンライン化」＝「り災証明や各種支援制度の手続の簡素化・オンライン化」、「被災者一人ひとりを必要な支援につなぐ仕組み」＝「被災者一人ひとりの状況を把握し、必要な支援につなぐ仕組み」、「自治会・学校・企業・行政が連携した地域防災力」＝「自治会、学校、企業、行政などが連携した地域防災力の強化」、「防災教育、避難訓練、経験・教訓の伝承」＝「防災教育、避難訓練、災害の経験・教訓の伝承」、「企業の事業継続や地域経済の早期回復支援」＝「企業の事業継続や地域経済の早期回復への支援」

問25（クロス集計） 被災の有無別にみた市が力を入れるべきこと

被災の有無別にみた市が力を入れるべきこと（上位5項目、全体）

被災の有無別にみた市が力を入れるべきこと（上位5項目）

問6 × 問25



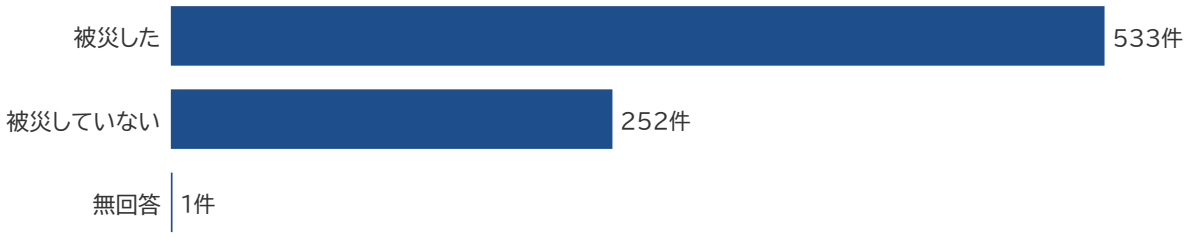
属性別の結果

避難所の環境改善は、被災していない方で70.8%と、被災者（64.9%）を5.9ポイント上回る。その他の項目は大きな差がない。

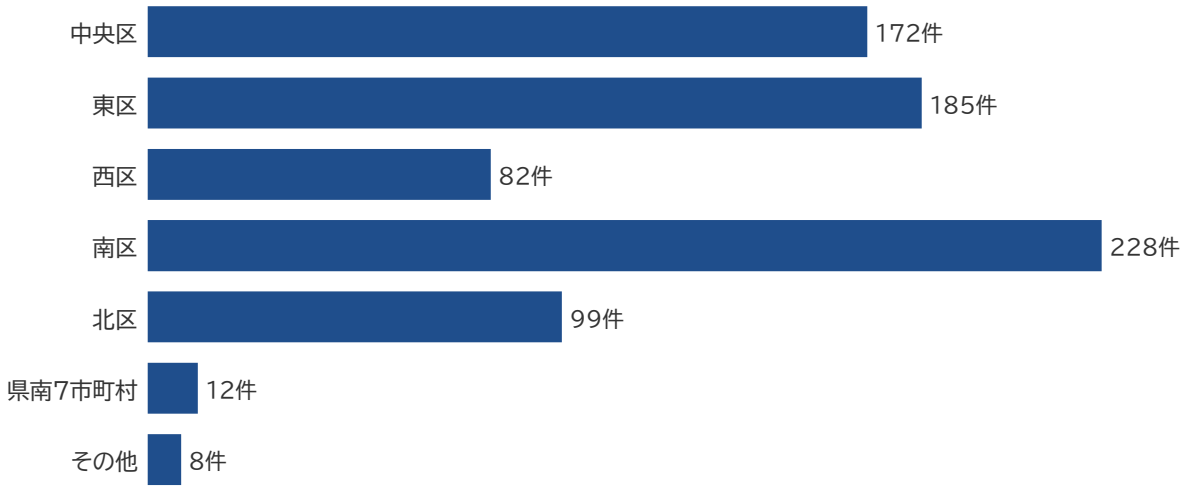
問26 あなたが現在必要としている支援、今回の災害対応の良かった点・改善すべき点、今後の復旧・復興や災害に強いまちづくりについて、ご意見・ご提案があればお書きください。

（任意記述） 記入者 n＝786（全体の32.8%）

被災の有無別の記入件数 問6 × 問26



居住地域別の記入件数 問3 × 問26



※ 単位は件。

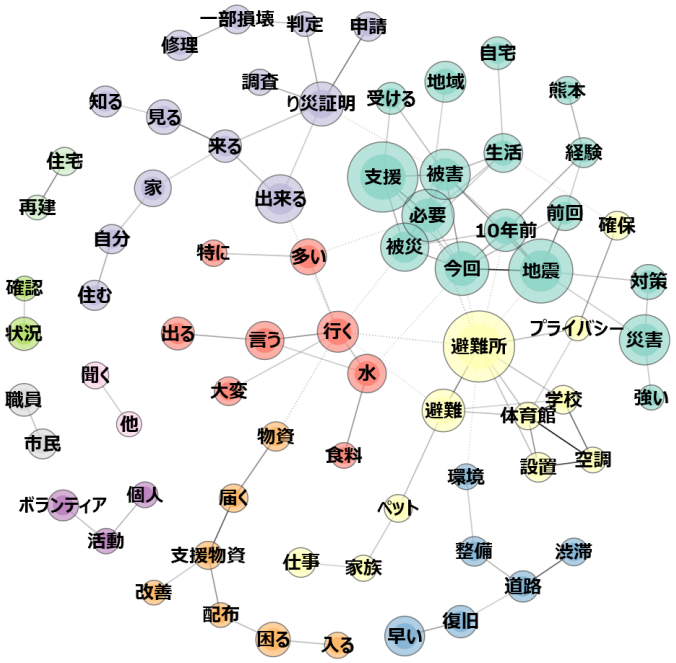
全体結果

記入件数は南区（228件）が最も多く、次いで東区（185件）、中央区（172件）となっている。

問26（続き） 自由記述の分析（1） 頻出語と主な話題

自由記述779件について、頻出語と回答者単位の共起関係を分析し、回答内容を確認した。「避難所」294回、「支援」286回が上位となり、空調・プライバシーの確保、在宅避難者への物資・情報の提供、り災判定と生活再建支援が主要な論点であることが伺えた。

語と語の共起ネットワーク図



頻出上位20語

順位	語	回数	順位	語	回数
1	避難所	294	11	り災証明	109
2	支援	286	12	避難	102
3	地震	237	13	10年前	100
4	今回	164	14	行く	94
5	必要	155	15	地域	93
6	被害	143	16	早い	88
7	災害	142	17	生活	83
8	出来る	132	18	水	82
9	被災	131	19	言う	81
10	情報	117	20	家	74

※「共起」とは、複数の語が同じ発言テキスト内で一緒に使われることをいいます。円が大きいほど語の出現回数が多く、線が太いほど語同士の共起の程度が強いことを示します。色は、共起関係の強い語のまとまりを示します。

自由記述の抜粋

（1）10年前との比較と教訓

「28年の地震と比較し、ライフラインの復旧はかなり早く、支援物資の提供も迅速であったと感じました」
「発災当日からプライバシー保護の出来る避難所を1日も早く作ってください」
「扉が開かないように、ストッパーをつけていたことにより、器具が飛び出すこともなく、助かった」

（2）避難所・避難生活

「避難スペースは男女別に教室が充てられていたので良かった」
「特に保健師さんが親身になって話を聞いてくださったことは余震への恐怖がある中で救われました」
「妊産婦がすぐ避難可能な産婦人科病院の近くに避難所があれば安心です」

（3）物資・情報・支援へのアクセス

「給水車が来てくれて飲水が確保されて精神的にも物理的にも助かった」
「該当区に送信対象を絞って、必要な情報が、必要な人に届きやすいように工夫してもらいたい」
「避難所でなされている支援が自宅避難せざるを得ない人々に届かず、個人で伝えて回るのは限界があった」

（4）り災証明と生活・住家の再建

「り災証明書をいただくまで時間がかかりました。また、調査も一回で納得できる調査にして欲しい」
「家が傾いてしまい、再度高額な費用が必要な状況なので、費用に対する補助を実施してもらえたら有り難い」
「仕事の継続の為に必要な利用しやすい迅速簡単な融資制度があれば嬉しい」

（5）地域の災害対応とインフラ復旧

「水道が止まったが2日程で復旧していただきとても助かりました」
「市役所職員だけでは負担がかかると思いますので、地域の潜在専門職のリスト化も必要と考えます」
「マンションの中や自治会で助けが必要な方と組織的に連絡を取れるシステムがあればいいなと思いました」

問26（続き） 自由記述の分析（2） テーマ別の主な論点

（1）10年前との比較と教訓

（1）①10年前の経験と備え

「家具は全部固定していたので、何一つ倒れることなく、部屋の中は大丈夫でした」
「熊本地震で半壊した自宅の耐震化等により今回の地震被害を免れました」
「備蓄をきちんとしたことで、心の安定にはつながりました」

（1）②前回からの改善

「水道は前回より復旧するのが格段に早かった」
「前回の地震にくらべるとペットへの配慮もみられよかったと思う」
「テントなのでプライバシーも守られると思いました」

（1）③教訓が生かされていない課題

「間仕切り、簡易ベッド、冷暖房はその日から必要だと思います」
「他所からの応援体制を事前に作成しておく必要があると思う」
「自宅避難者に対する支援物資の配給情報を充実させて欲しいです」

（2）避難所・避難生活

（2）①避難所の施設・生活環境

「避難場所にされている校区の体育館にエアコンが設置されたこと」
「他人からの視線を遮った状態で寝られる避難所であってほしい」
「避難所の段ボールベッド、洋式の仮設トイレは必須です」

（2）②避難所の運営と対応

「発災後速やかに避難所が開設され、市の担当者もすぐ配置されスムーズな対応がされた」
「各地域で避難所を開設できるメンバーの登録や組織図を作りたいと思います」
「避難所運営に地域住民があまり関われていないこと」

（2）③多様な避難者・避難への対応

「宇城市の家族が熊本市のホテルに避難できたことが助かりました」
「ペット同伴で避難ができ、尚且つ一緒に過ごせる避難所を作ってほしいです」
「人工内耳は、毎日、充電しないといけないので、避難所にコンセントが必要です」

（3）物資・情報・支援へのアクセス

（3）①水・食料・物資の提供

「備蓄食糧・飲料水のほか弁当の配達があり良かった」
「避難所で配布される弁当メニューの偏り…配布するのは有難いが油物が多い」
「短期間でもよいので各エリアに給水所を設けて欲しかった」

（3）②必要な情報の提供・共有

「空いている避難所をオンラインで確認できたのは良かった」
「高齢者には情報のプリントを配布や回覧したほうがいいと思います」
「やさしいにほんごによる情報発信が積極的に行われた点が良かった」

（3）物資・情報・支援へのアクセス（続き）

（3）③支援が必要な人への到達

「社協から個別訪問があった事」
「軒先避難の場合でも、救援物資が手に入るようにして欲しい」
「車がない方は給水所に行く手段がなく徒歩で行くには難しいと感じます」

（4）り災証明と生活・住家の再建

（4）①り災証明と被害判定

「り災証明書をオンライン申請出来たことが良かった」
「り災証明書をいただくまで時間がかかりました」
「1次調査・2次調査ともに、判定の根拠となった点数内訳を開示してほしい」

（4）②住宅の修理・再建

「住居の再建にあたりどのような事業者にお願いすればよいのか情報が欲しい」
「一部損壊家庭も修理費用などの負担は大きいです」
「住宅の新築再建を支援し、アクセルとなるような制度設計をお願いします」

（4）③生活再建に向けた支援

「仕事が減り収入が減っているので金銭的な支援があれば助かる」
「賃貸住宅で被災し、退去になった場合の支援をして欲しい」
「被災者の生活再建支援制度（二重ローン救済等）における手続き・事務作業の軽減」

（5）地域の災害対応とインフラ復旧

（5）①道路やインフラの復旧

「電気・水道・ガスがほぼ停止することなく使えたことは、この猛暑のなか命を守るうえで本当に助かった。地道にインフラ耐震強化を図ってきた大きな成果だと思う」
「道路などの軟弱地盤はハザードマップに沿って早急に今後の地震前に補強してほしい」
「地震当初、車渋滞でバスや救急車などが動かなく困りました」

（5）②行政・職員による災害対応

「地震から数日で区役所の保健師さんが電話してくれました」
「窓口によって説明や対応が異なり、複数の部署を回ることになった」
「県外の災害派遣回収チームと区の職員が、土日も連携して巡回・回収されており、感謝しています」

（5）③地域・市民・ボランティアの活動

「井戸のある世帯と助け合いが出来ていたのは、熊本ならではかもしれません」
「ボランティアさんに通院支援や買い物支援があれば助かります」
「地域で防災士育成と機能する体制作りが必要と感じた」

資料　アンケート調査票

本調査で使用した調査票の原文

Ⅰ ご自身（回答者）と世帯のことについて

1 あなたの性別を教えてください。（1つ選択）

1 男性
2 女性
3 その他
4 回答したくない

2 あなたの年齢を教えてください。（1つ選択）

1 17歳以下
2 18～29歳
3 30～39歳
4 40～49歳
5 50～59歳
6 60～69歳
7 70～79歳
8 80歳以上

3 今回の令和8年熊本地震が発生した時に、あなたがお住まいだった地域を教えてください。（1つ選択）

1 中央区
2 東区
3 西区
4 南区
5 北区
6 県南７市町村（八代市、氷川町、宇土市、宇城市、嘉島町、御船町、芦北町）
7 その他（ ）

4 発災時のあなたの世帯構成について教えてください。（1つ選択）

1 高齢者単身世帯（65歳以上の一人暮らし）
2 高齢者のみ世帯（65歳以上のみで構成）
3 単身世帯（65歳未満）
4 夫婦のみ世帯（65歳未満）
5 夫婦とこどもの世帯
6 ひとり親とこどもの世帯
7 三世代同居世帯（親・子・孫など）
8 その他（ ）

5 発災時、あなたの世帯に次の方はいましたか。（複数選択可）

1 65歳以上の高齢者
2 未就学児
3 妊婦
4 障がいのある方
5 介護を必要とする方
6 外国人
7 該当する方はいなかった

6 今回の地震によって被災しましたか。（1つ選択）
当該設問における「被災」は住家被害や家財被害だけでなく、健康状態の悪化や精神的ストレスなど、心身や生活への影響も含みます。

1 被災した
2 被災していない ⇒ 問20へ

II 被災者への質問

7 被災時の住居について、種類を教えてください。（1つ選択）

1 持ち家（一戸建て）
2 持ち家（マンション等集合住宅）
3 賃貸住宅（一戸建て）
4 賃貸住宅（マンション等集合住宅）
5 公営住宅
6 家族、親戚、知人の家
7 その他（　　）

8 被災時の住宅について、教えてください。（1つ選択）

1 10年前の平成28年熊本地震で家屋が被災し、その後、耐震改修・補強を行った
2 10年前の平成28年熊本地震で家屋が被災したが、耐震改修・補強は行っていない
3 10年前の平成28年熊本地震では家屋は被災していない
4 10年前の平成28年熊本地震後に新築又は建て替えられた住宅である
5 わからない

9 現在、生活している場所についてお聞きします。（1つ選択）

1 修理の必要がなく、被災前と同じ住宅で生活している
2 修理を終え、被災前と同じ住宅で生活している
3 修理中又は修理を待ちながら、被災前と同じ住宅で生活している
4 建設型応急住宅で生活している
5 賃貸型応急住宅で生活している
6 市営住宅（一時提供）で生活している
7 応急仮設及び市営住宅（一時提供）以外の別の住宅で生活している
8 避難所
9 親族・知人宅等に身を寄せている
10 その他（　　）

10 あなたは、今回の地震後、被災時の住まい以外の場所へ避難しましたか。（複数選択可）

1 避難しなかった
2 熊本市が開設した指定避難所（学校、公共施設等）へ避難した　⇒問12へ
3 地域の避難所・自主避難所（公民館、集会所等）へ避難した
4 親戚・知人宅へ避難した
5 車中泊をした
6 宿泊施設（ホテル、旅館等）へ避難した
7 医療・福祉施設へ避難した
8 その他（　　）

11 問10で「熊本市が開設した指定避難所」を選択しなかった方にお聞きします。あなたが、熊本市が開設した避難所を利用しなかった理由を選んでください。（複数選択可）

1 自宅で生活でき、避難する必要がないと思った
2 避難所の場所や開設状況が分からなかった
3 避難所までの移動が難しかった
4 家族の状況や健康上の理由により、避難所を利用することが難しかった
5 ペットを連れて利用することが難しいと思った
6 混雑、衛生、プライバシーなど、避難所の生活環境に不安があった
7 自宅や家財から離れることに不安があった
8 地域の避難所、自主避難所、親族・知人宅、車内、宿泊施設など、他に過ごせる場所があった
9 特に理由はない
10 その他（　　）

12 発災直後からおおむね1週間の間に、あなた又はあなたの同居家族の暮らしに影響があった（困った）項目を全て選んでください。（複数選択可）

1 食料、飲料水の確保
2 住まい・生活する場所の確保
3 ライフライン（電気・ガス・水道・通信環境）の停止
4 トイレ・入浴・洗濯などの生活衛生
5 医療・服薬、心身の健康
6 こどもの預かり・居場所、保育・教育
7 高齢者の介護・見守り、日常生活
8 障がい者や医療的ケアを必要とする方の日常生活
9 ペットの世話（ペットがおり、避難できなかった場合を含む）
10 仕事・事業・収入
11 移動手段・交通の確保
12 災害関連情報の入手
13 家屋・家財・災害ごみの片付け
14 空き巣、詐欺、性犯罪などの防犯・安全面
15 り災証明などの行政手続き
16 困ったことはなかった

13 り災証明書が発行されていますか。（1つ選択）

1 発行されている
2 発行されていない
3 調査中（二次調査含む）
4 申請していない

14 住家の被害について、被害の程度を選んでください。り災証明書が発行されている方は、証明書の判定区分を選択してください。調査中（二次調査を含む）又はり災証明書を取得していない方は、ご自身の認識に最も近いものを選択してください。（1つ選択）

1 全壊
2 大規模半壊
3 中規模半壊
4 半壊
5 準半壊
6 一部損壊
7 住家に被害はない
8 わからない

15 住家や家財・家電に被害がありましたか。（1つ選択）
被害があった場合は、被害額、行政からの支援額、保険による補償額及び自己資金で負担した額又は負担予定額について、分かる範囲でおおよその金額を万円単位でご記入ください。現時点で分からない欄は、空欄でも構いません。

1 住家に被害があった
2 家財・家電に被害があった
3 住家及び家財・家電に被害があった
4 被害はなかった

（1、2、3の選択肢を選択された方はご回答ください）

項目	被害額	行政からの支援額 （受給済み又は受給見込み）	保険による補償額 （受領済み又は受領見込み）	貯蓄等の自己資金で 負担した額又は負担予定額
住家への被害	万円	万円	万円	万円
家財・家電への被害	万円	万円	万円	万円

16 現在、今回の地震に関連して困っている項目を全て選んでください。（複数選択可）

1 食料、飲料水の確保
2 住まい・生活する場所の確保
3 ライフライン（電気・ガス・水道・通信環境）の停止
4 トイレ・入浴・洗濯などの生活衛生
5 医療・服薬、心身の健康
6 こどもの預かり・居場所、保育・教育
7 高齢者の介護・見守り、日常生活
8 障がい者や医療的ケアを必要とする方の日常生活
9 ペットの世話（ペットがおり、避難できなかった場合を含む）
10 仕事・事業・収入
11 移動手段・交通の確保
12 災害関連情報の入手
13 家屋・家財・災害ごみの片付け
14 空き巣、詐欺、性犯罪などの防犯・安全面
15 り災証明などの行政手続き
16 困ったことはなかった

17 今回の地震に関連して、現在も負担や不安に感じていることはありますか。（複数選択可）

1 余震や再び災害が起きることへの不安
2 住まいの修理・再建や転居への不安
3 生活費、修理費、住宅ローンなど経済面の不安
4 仕事や事業、収入への不安
5 家族の健康や生活への不安
6 自分自身の心身の不調
7 睡眠や休養が十分に取れないこと
8 避難生活や転居による生活環境の変化
9 家族、友人、近隣住民などとのつながりの変化
10 こどもの生活や心身への影響
11 高齢者、障がいのある方などの生活への影響
12 過去にも災害を経験しており、繰り返し被災したことによる負担
13 被災経験を周囲に理解してもらいにくいこと
14 特に負担や不安はない
15 その他（　　）

18 余震や避難生活、転居先での生活などにより、心身に大きな負担を感じている方もいらっしゃると思います。今回の地震後、心の安らぎや気分転換につながると感じるものを選んでください。（複数選択可）

1 家族との時間
2 友人・知人との交流
3 音楽を聴く、本を読む
4 映画・演劇などの鑑賞
5 美術館・博物館に行くこと
6 スポーツや運動、散歩を楽しむ
7 SNSを見る
8 一人で静かに過ごす
9 仕事・学業
10 動物と触れ合うこと
11 趣味や創作活動を行う
12 保健師、医師、カウンセラー等への相談
13 地域の交流会や集いの場への参加
14 特になし
15 その他（　　）

19 あなたの住まいの再建（修理や転居等を含む）や不安なことについて、現在の状況に最も近いものを選んでください。（1つ選択）

1 住まいの再建方針や再建時期が決まっており、特に大きな問題はなく日常生活を送っている
2 住まいの再建方針や再建時期は決まっているが、主に心身の健康面に課題を抱えており、日常生活において継続的に支援が必要
3 住まいの再建方針または再建時期が未定である、又は資金面・就労・家族関係等に課題を抱えているため支援が必要
4 住まいの再建に関して課題を抱えており、かつ、日常生活においても継続的に支援が必要
5 特に不安等はない

III 全市民への質問

20 今回の地震に関する情報をどこから得ましたか。（複数選択可）

1 熊本市ホームページ
2 熊本市公式LINE
3 熊本市公式SNS
4 熊本市緊急告知ラジオ
5 緊急速報メール
6 防災行政無線
7 くまもとアプリ
8 市政だより、チラシ・冊子
9 避難所・公共施設等の掲示
10 テレビ・ラジオ・新聞
11 町内自治会・地域団体
12 学校・保育所等又は勤務先
13 家族・知人
14 インターネット検索・熊本市以外のSNS
15 情報を得るために利用したものはない
16 その他（　　）

21 10年前の平成28年熊本地震を含む過去の被災経験を踏まえて、ご自身やご家族で事前に備えていたことはありますか。（複数選択可）

1 飲料水や食料の備蓄
2 携帯トイレ・衛生用品の備蓄
3 懐中電灯・モバイルバッテリー等の準備
4 非常持出品（非常持出袋）の準備
5 家具の固定やガラス飛散防止などの対策
6 感震ブレーカーの設置などによる通電火災の防止
7 地震保険・家財保険への加入
8 住家の耐震化
9 家族との連絡方法の確認
10 家族との避難行動や集合場所の確認
11 こどもや家族の防災教育
12 避難場所や避難経路の確認
13 ハザードマップの確認
14 地域の防災訓練や防災活動への参加
15 自家用車の燃料や非常用品の確保
16 ペットの避難準備
17 特になし
18 その他（　　）

22 今回の令和8年熊本地震を受けて、今後ご自身やご家族で強化したいと考えている備えや対策はありますか。（複数選択可）

1 飲料水や食料の備蓄
2 携帯トイレ・衛生用品の備蓄
3 懐中電灯・モバイルバッテリー等の準備
4 非常持出品（非常持出袋）の準備
5 家具の固定やガラス飛散防止などの対策
6 感震ブレーカーの設置などによる通電火災の防止
7 地震保険・家財保険への加入
8 住家の耐震化
9 家族との連絡方法の確認
10 家族との避難行動や集合場所の確認
11 こどもや家族の防災教育
12 避難場所や避難経路の確認
13 ハザードマップの確認
14 地域の防災訓練や防災活動への参加
15 自家用車の燃料や非常用品の確保
16 ペットの避難準備
17 特になし
18 その他（　　）

23 災害に強いまちづくりに向けて、あなたが周りの人たちと一緒に取り組めることはなんですか。（複数選択可）

1 災害時に隣近所の人の安否を確認する
2 災害時に避難が難しい人の避難を手伝う
3 災害時に近所の人へ食料や水を分け合う
4 災害時に近所のこどもの見守りや一時的な預かりに協力する
5 災害時に近所が飼っているペットのお世話に協力する
6 災害時に避難所の運営の手伝いをする
7 災害情報や防災情報を家族や近所の人に伝える
8 デジタルツールを使うことが難しい方のり災証明書や各種支援制度のオンライン申請を手伝う
9 日頃から地域の防災訓練や地域活動に参加する
10 日頃から家族や近所の人と避難先や連絡方法を確認しておく
11 日頃から近所の人とあいさつや声かけを行う
12 特になし
13 その他（　　）

24 今回の熊本地震からの復旧・復興を進める上で、重要だと思うものを選んでください。（複数選択可）

1 要配慮者への福祉的支援
2 恒久的な住宅再建までの切れ目ない支援
3 心身の健康悪化・孤立防止
4 こどもの心身のケア
5 道路・橋梁・水道・下水道などの復旧と強靭な都市基盤整備
6 防災拠点施設や避難所の強靭化
7 地域との連携などによる地域防災力の向上
8 避難者の把握、情報発信などを迅速に行う防災DX（デジタルトランスフォーメーション）
9 事業者や観光業などのなりわいへの支援
10 熊本城などの文化財や心の復興
11 特になし
12 その他（ ）

25 これまでの災害を踏まえて、熊本市が災害に強いまちになるために、力を入れるべきことを選んでください。（複数選択可）

1 住宅、公共施設、学校などの耐震化
2 道路、橋、上下水道などの耐震化・老朽化対策
3 電気、通信、交通が停止した場合の代替手段の確保
4 防災拠点や避難所となる施設の安全性向上
5 避難所のトイレ、空調、入浴、プライバシーなどの環境改善
6 食料、飲料水、生活物資、非常用電源などの備蓄
7 要配慮者（高齢者、障がいのある方、妊産婦、乳幼児）への個別避難支援
8 災害時のこどもの居場所づくり
9 ペットを連れた避難への対応
10 医療・福祉サービスを災害時にも継続できる体制
11 災害情報を早く正確に届ける仕組み
12 避難所の開設状況、混雑状況、支援物資などを確認できる仕組み
13 り災証明や各種支援制度の手続の簡素化・オンライン化
14 恒久的な住宅再建までの切れ目ない支援
15 被災者一人ひとりの状況を把握し、必要な支援につなぐ仕組み
16 自治会、学校、企業、行政などが連携した地域防災力の強化
17 防災教育、避難訓練、災害の経験・教訓の伝承
18 企業の事業継続や地域経済の早期回復への支援
19 特になし
20 その他（ ）

26 あなたが現在必要としている支援、今回の地震における災害対応の良かった点・改善すべき点、今後の復旧・復興や災害に強いまちづくりについて、あなたのご意見・ご提案があればお書きください。（任意記述）

令和8年熊本地震に関する市民アンケート調査　結果報告書

発 行 日　　令和8年（2026年）10月

編集／発行　　熊本市 政策局 復興総室

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号

電話：096-328-2111（代表）